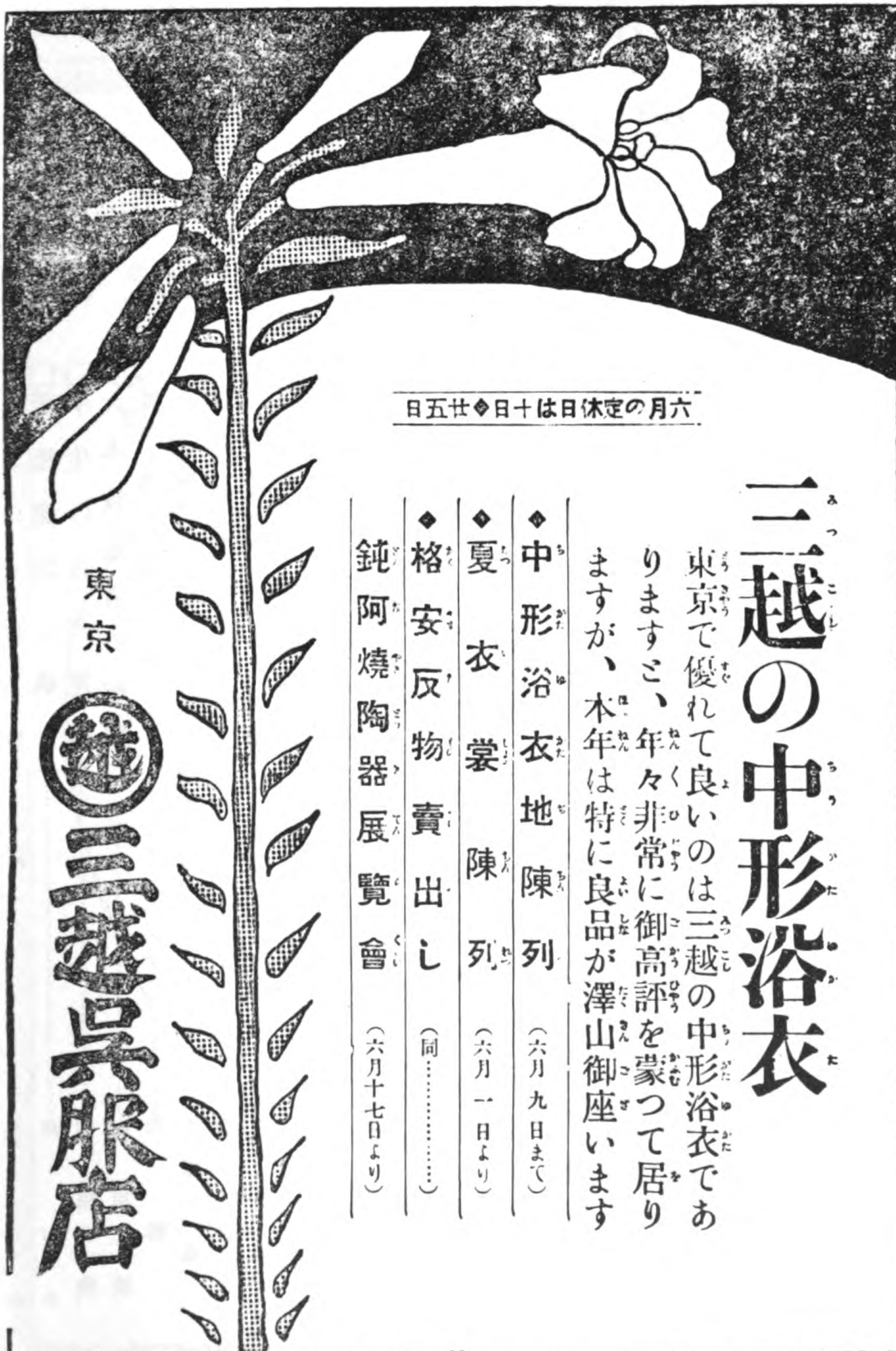
新婦人協會

機關雜誌

女性同盟

9

六月號


六月の定休日は十日◇廿五日
三越の中形浴衣
東京で優れて良いのは三越の中形浴衣であ
りますこゝ、年々非常に御高評を蒙つて居り
ますが、本年は特に良品が澤山御座います
◇中形浴衣地陳列（六月九日まで）
◇夏衣裳陳列（六月一日より）
◇格安反物賣出し（同……）
鈍阿焼陶器展覧會（六月十七日より）
東京
越
三越呉服店

無料 婦人相談部開設

今度、婦人相談部を開きました。婦人ならばどなたでも、無料で協會の役員が一身上の御相談相手になります。

一、相談事項

戀愛問題、結婚問題、家庭問題、子供問題、教育問題、生活問題、其他一切の煩悶。

一、面會時間

毎週月曜、午後一時より夜八時まで

地方の方又は外出の御不自由な方の爲め手紙の御相談にも應じます。

一、擔任者

主任 平塚明、市川房枝、奧むめお

必要な場合は専門家を紹介します。

一、場所

新婦人協會事務所内（貴族院前）

新婦人協會 事業部

女性同盟維持費募集

新年號本部通信中に記載しました通り、雜誌の經營が可成り困難な状態に居りますので左記の規定により大方の御援助を仰ぎたいと思ひます

一、御加入の日より向ふ一ヶ年間毎月「女性同盟」發行費缺損中へ出金する事。

一、一口を金壹圓としそれ以上幾口にても可なる事御送金は出版部宛の事。

一、御加入の方には毎月雜誌の決算報告をする事

已に御加入下さいました方々の御氏名は來月號紙上で發表いたしますが、こゝに厚く御禮申上げます。

新婦人協會 出版部

事務所移轉

今度事務所を左の所に移しました。

麹町區内幸町一丁目六番地

（森村自動車部内）

電話新橋二九九二番

女性同盟

第九號目次

婦人相談欄

新婦人協會綱領

一、婦人の能力を自由に發達せしめるため男女の機會均等を主張すること。

一、男女の價値同等觀の上に立ちて其の差別を認め協力を主張すること。

一、家庭の社會的意義を闡明すること。

一、婦人、母、子供の權利を擁護し、彼等の利益の增進を計ると共に之に反する一切を排除すること。

新婦人協會宣言

婦人も亦婦人全體のために、その正しき義務と權利の遂行のために團結すべき時が來ました。今こそ婦人は婦人自身の教養、その自我の充實を期するのみならず、相互の堅き團結の力によつて、その社會的地位の向上改善を計り、婦人としての、母としての權利の獲得のため、男子と協力して戰後の社會改造の實際運動に參加すべき時であります。若しこの時に於て、婦人が立たなければ、當來の社會も亦婦人を除外した男子中心のものとなるに相違ありません。そしてそこに世界、人類の禍の大半が置かれるのだと思ひます。

私共は日本婦人がいつまで無智無能であるとは信じません。否、既に我が婦人界は今日見るべき學識あり、能力ある幾人かの新婦人を有つてゐます。しかも私共は是等の現はれたる婦人以外に、なほ多くの更に識見高き、思慮あり、實力ある隱れたる婦人のあることを疑ひません。然るに是等の婦人の力が一つとして社會的に若しくは社會的勢力となつて活動して來ないのは何故でありませう　全く婦人相互の間に何の聯絡もなく、各自孤立の狀態にあつて、少しもその力を婦人共同の目的のために一つにしやうといふやうな努力もなく、又そのための機關もないからではないでせうか。私共はさう信ずるものであります。

是れ私共が微力を顧ず、同志を糾合し、茲に婦人の團體的活動の一機關として「新婦人協會」を組織し、婦人相互の團結を計り、堅忍持久の精神を以て、婦人擁護のため、その進歩向上のため、或は利益の增進、權利の獲得のため努力し、その目的を遂せんことを期する所以であります。

大正九年三月二十八日

坂本眞琴出席

常置家庭染色講習會

毎週火曜・木曜兩日年中無休

午前十時ヨリ午後四時迄

日曜講習ハ三月ヨリ十月迄

正午ヨリ五時迄

府下・大井町・坂下・電話大森長三六七番

——省線大森驛ノスグ前デス——

女性同盟

第九號



大正十年六月一日發行

時事批判

政界の危險人物

某代議士『いや新婦人と云へば弱らされましたよ。矢張り議會中の事でした、例の治警五條の問題で新婦人の代表者連中に初めて會つてみましたが……最後に未だ肩揚げもとれぬやうな小娘が立上つて、何を云ふかと聞けば「妾等にはもそつと根本の問題がある。それは貴方がたにそこを退いてお貰ひしたい事だ」と云ふんでせう、「そこは？」と反問すると「代議士を止して下さい」と云ふんです』

某縣理事官『ハテネ、直接行動とでもいふのですかね』

某代議士『いや、自分等が代ると云ふんです』

一同『アハヽ……それあ驚いた』

これは大觀六月號の現代中心勢力圏の一縮圖と題した卷頭言の一部を引用したのであるが、私は昔日私共婦人數名が、政友會の某々代議士等に招待されて一夕會談した折の事を憶出して苦笑を禁じえなかつた。「未だ肩あげもとれぬ樣な小娘」の時代は、もう十年も前に過ぎて來てゐる私が、そんなに若く見られたといふことは、とにかく大いに光榮としなければならないやうに思ふ。が然しあの席上で私が云つたのは、代議士等が「貴女方は政界の事情を少しもしらないでゐて運動をするのだから不可ない」と云ひ、又「警治第五條といふたつた一つの問題を提げてやつて來るから中々通らないんだ、あれもこれもと澤山の問題を出して來れば、その内の一つ位は通してもよからうと

云ふ風になつて、だん〳〵貴女方の目的が適ふやうになるわけぢやないか」と云ふので、日頃政治家といふものに絶望しかけてゐた私がすつかり憤慨して、政界の事情などといふ七面倒な情實や駈引にあやつられ、またあやつつて自分達の運動をしようとは思つてゐない事と、さうする事は自分達を腐敗した今日の政界の地位に迄堕落させるだけの事で、決して斯うあつて欲しいと思つてゐるやうな政治を實現させる所以でないこと、そして現在なほ今の政治家達がいついつ迄も彼等許りが政治的權力者として、われ〳〵の希望を容れたり拒んだり出來るもの〻やうに誤信してゐるひまに舞臺は吃驚するやうな轉囘をして呉れるであらうといふ意味のことを言つたのであつた。その時他の一人は「奥さんの理想論云々」と云つて輕く笑つたが、これが理想論であらうか。既にすでにのがれられぬファクトとして、彼等のうなじに飛か〻らうとしつ〻ある事に何故目ざめないのであらうか。此等の代議士の如きは、批評の領域を超えた頑冥さである。私は斯くの如く頑冥な人々に送る言葉を知らないが、來るべき事實が雄辯にそれを教へて呉れるであらうと思ふ。全く、斯ういふ人々をのせた舞臺はズン〳〵上の方にせり上げられて、下には新しい次代が準備せられつ〻のだ、新しい次代にとつて、彼等は餘りに緣なき衆生である。たゞ私は恐れる、頑冥な彼等のために、不可避の悲劇が、更に大きくされ、深酷にされなければならないであらうといふことを。さういふ意味で彼等こそ危險人物である。（むめお）

勞働問題に就て

或婦人が神學校を卒業したが、轉じて勞働問題に身を投じたといふ記事を新聞紙上でみた。この外にも勞働問題に依つてこそ自分の要求は充たされると思ふと云つた人々があつたことを記憶してゐるし、事實、さういふ心から勞働問題に沒頭したといふ人が少からぬ――殊に近頃の婦人の間にさういふ人が多いやうに思ふ。然しその人達が一口に勞働問題と云つてゐるそれは、友を愛するとか、隣人をあはれむとかいふ風な心から出發する

勞働者の保護事業とか救濟事業に關することであつて、近頃世間で喧しい眞の勞働問題とはずつと異つた、根本的に相容れない性質のものであることを忘れてはならない。一種の社會事業としてそれ等の仕事も、あつた方がないよりはましな場合がたしかに多いことは事實であるが、ほんたうの意味の勞働運動が、それ等とは何の關係もなく勞働者自身の自覺に根差した、掠奪せられたものをとり戾さうとする運動がどん〳〵進渉して行く事も事實である。勞働者自身の自覺を外にして、恩惠的に外から與へられる指導とか救濟とか勞働者の眞の幸福に資するべくあまりに姑息な手當であることに人々は氣がつかなければならない。

婦人問題の場合に於てもそれと同じで、婦人自身の覺醒を外にしてその地位の向上は期すべくもない。婦人自身の覺醒なくして、今こゝにどんなに理想的な新社會が實現されたとしても、恐らくは婦人の奴隸的な存在は今日のまゝであるであらう。カール、マルクスは『萬國の勞働者よ、團結せよ』と云つたさうであるが、私は、もつと廣い意味で單に經濟上だけの意味からではなくして、『奪はれたる男女よ、團結せよ。』と云ひ度いと思ふ。(むめを)

學生の政治運動

學生が其本分を忘れて政治運動に狂奔するのは素より賞むべきことでないのは言を俟たぬが、この事を以て、政治運動を爲る學生そのものを一概に責めることが出來ない理由のあることも亦考へなければならぬことである。何となれば學校そのものゝ背景に若干政治的勢力の存在を否定することの出來ない今日に於ては、學事に關する運動がとりもなほさず、政治運動そのものである事が多いからである。

のみならず、學校運動の政治化を責める當局そのものが學政を執るに際して苟も虛心坦懷でなくて、そこに政黨政派に關する偏見を加味して事を處する樣な事があつたとしたならば、その當局は恰も強ひて政治的學校運動の誘發に力むるかの槪がないではない。往年大隈内閣當時に於ける早稻

田大學の騒擾の際學生側の背後に某大政黨の勢力が加つてゐるとの噂があつたり、今度の明大問題に關して文部當局が植原博士の復職を阻止せんとするが如き學校爭議に政治的扞格が混入しないといふ樣なことを果して言ひ切ることが出來るであらうか。既に學校そのものを操るところのperformanceが政治化してゐる以上、舞臺面に表はれる學生そのもの政治運動を非難することは出來まいと思ふ。

大學は單に知識を切賣りする市場ではない。人間性を陶冶する場所である。その人間性の發露として主張することが必要である場合にはたとへ學生と雖も決して逡巡すべきものではない。苟も正當なる理があつたなら正々堂々と之を貫徹せしむべきである。これを容れられぬ場合血氣のあまり若干暴行——といつても硝子を壞す位が關の山ではあるが——に出づる樣な事があつたとしてもそれは學生そのものよりも責むべきものはもつと外になければならぬ。

新聞紙の傳ふるところには、中橋文相は明大學生のこの度の行を熱病の發作にたとへその中に治療を施してやるといはれたさうであるがその所謂熱病まで病まねばならぬ程、學生の神經を昂奮せしめた原因は何であらう。

私は學生の政治的運動を責めるよりも、そのこゝに至らしめる時代の背景そのものにより以上責むべき點を見出すものである。(美都)

大本教道者の檢擧

二百の警官隊が丹波綾部の大本教總本山に押寄せて、出口、淺野等該教道者を檢擧して取調續行中との報が傳はつた時は、驕る者久しからざる例も思はれ尠からず痛快の感があつた。

愚昧の民を誘ふに牽強附會の妄言を以てし、既に相當の根底を築き了るや猿臂を知識階級に及ぼさんとして所謂危險思想を好餌とす、而も其の目的とするところは共にたゞ私腹を肥さんとするのみである。憎みても餘りあるは這箇淫祠邪教の布教者輩である。原より文盲の徒輩、徒らに大言壯語、大義名分を忘れ、至上者の尊嚴をも冒瀆し奉

るに至り、今日の窮厄に陥るもまた天の數といふべきである。

然しながら、大本教の樣なつまらぬ教がこの短日月の間に非常な勢で蔓延して全國に散在する信徒萬を以て數ふといふ樣な盛況を見るに至つた原因はそも那邊に存在するであらうか。之れは識者の一顧に價する問題である。

今や我が國は開國當初の所謂國是なるものは徒らに史上の空文として殘るのみで、教育の機會均等は實現に難く閥族聖明を擁塞して忠良なる陛下の赤子は途炭の苦も以て告ぐるの所なく、官紀弛廢、賄賂公行、良民の誅求せらるゝこと其の度を知らざるありさまである。志あるものが之を變へ大正の維新を絶叫して立てば、官邊の威壓は直ちに之に加はつて言論に行動に極度の拘束を受け、甚しきに至つては累絏の辱をさへ被るに至る。乃ち建設的運動に從事して局面を轉回することも出來ねば、頽廢の現狀に甘んずるも苦しといふ樣な有志の徒はそこに悶々の鬱情をやる何等かの道を講ずるに至るのは亦自然の成行である。こゝに於てか知名の讀書人士にしてなほかつ文盲の巫女出口お直輩の妄言に耳を傾ける者が簇出するの奇現象さへ生じて來る。水に溺れんとするものにとつては一條の藁もなほ力草たるの理と同一であつてそこにむしろあはれむべき衷情を見出すことが出來る。爲政者がこの根本に見るところなくしてたゞ二百の警官隊を驅つて大本教の最高幹部を檢束して得々たる有樣であるならば、私等は斷じて之を賞することが出來ない。事態こゝに至れる原因たる社會民心の極度の困憊不安そのものが抑々何によつて生じたかに就いていさゝかでも考ふるところがあつたならば、陛下の赤子を預る補弼の臣たるものは夙夜恐懼以て治世に勵むべきであらねばならぬ。

大本教道者殉難の新聞記事は大きな見出しで夕刊の一頁を殆と之にとつて私達の案頭に齎らされたが、私達の之によつて受けたところの刺戟は甚だ僅少であつた。何故ならば大本教そのものが私達の眼中にははいつてゐない存在であつたからである。それよりも、もつと〳〵私達の頭腦に充塞

して私達の精神的乃至物質的生活の威壓をしてゐる事實が世上には多々存在するのをどうしようかそれは官僚、閥族貴族、富豪等所謂支配階級に屬するものゝ背任非行これである。渺たる大本教道者檢束の爲めに二百の警官隊を用ゐた程の大勇猛を官邊はなせに彼等背任非行の支配階級の者の上に加へないのであらうか。淵源を淸めずして徒らに下流の混濁を憂へたとて何になるか。この稿を書いてゐる今日は滿鐵起訴の事も未だ確然とはしてゐないが山縣老公は旣に優諚を拜してゐる。

（美都）

性慾成金

その原因がどこにあるのかは知りませんが、昨年の春頃から今年上半期へかけて出版界に起つた注目すべき現象は性慾と銘打つた書籍の數多い刊行でありました。また殆どいかなる種類の雜誌にも性慾といふ文字が每號どこかに眼につかない事がない位ゐでした。つまり性慾を賣り物にすれば必らず當てない事はないといふ有樣で、性慾書の出版によつて懷を肥した眼ざとい出版業者は澤山あつたに違ひありません。

サンガー夫人の產兒制限論が初めて輸入されたのはたしか一昨年のやうに憶えてゐますが、その論戰が最も賑はつたのは昨年の春夏頃であつたやうです。こんな事も一つの直接原因であつたかも知れません。これを道學者ぶつて、または經世家ぶつてその原因を探ることは、興味のある事でもあり、また無益のことゝは思ひませんが、私は今それをしようとは思ひません。しかしそれらの多くの賣らんかなと、儲けんかなの合著になつた性慾記事には、內容の精選や、影響の如何やを考へたものを見出し得なかつたのは悲しい事でした。勿論小數の眞劍な研究家も認められましたけれども、それらの研究家すらも、時流の好尙を追うて徒らに書肆の喰物となつた傾向さへあるのは誠に悲しい事に思はれました。好奇心をつるとか、もつと切實にいへば劣情に訴へるために書かれたとしか思はれぬ、何ら著者の良心を讀み得ない刊行物の流行は、それが一種の解放運動の一方面に獨

れた問題であるだけ寒心させられるやうな氣がしました。

人類の性慾生活の正しい秩序については、私達はまだ研究者の一人であつて、權威ある定説を提唱するといふやうな用意をもちません。たゞ私にはかういふ事が感じられるだけです。即ち今日までは男子が無制限に性慾の自由權を行使して來たが、私達婦人は私達自身の手で、男性にのみ無制限を許し、また無制限が生んだ社會各方面に亘る兩性生活の整理をつける時期へ來たこと、かういふ時期に來かゝつてゐ、また一日も早く來させねばならないにも拘らず、昨今横行する性慾書は、むしろ男子側の無制限を唆る傾向がありはしないか懸念せずにゐられないといふ事、これでありま す。

原始共產社會には、男女兩性に性慾の自由が公認されてゐて、事實上貞操といふ語が存在しなかつたと、結婚史には見えてゐます。今日の社會を原始時代に還元させることが不可能なやうに、所謂雜婚的性慾自由を到來させることは、いかなる性慾解放論者も望まないでありませう。けれども父權の優越を保つための必須條件として婦人に向つてのみ加へられた法外なる性慾禁制の道德は、どこまでも不當でなければなりません。さういふ意味で婦人の性慾解放といふことも一つの近代解放運動の重要なる一つであるとは認めますが、それは原始人の行使した性慾自由とは非常に違つたいひ得るならば、非常に進んだ内容をもたせねばなりません。即ちそれは男女によつて區別を立てゝゐる所謂二重道德を打破するといふ意味と、この意味に含まるゝヒユーマニスティックな、從つて眞に道德的な内容をもたねばならないと思ふのです。それには良心なき人の啓蒙運動は禁物であります。今の滔々たる性慾書流行の如きも良心なき啓蒙運動の一現象とは見られないでせうか。

私共は生理的に心理的に或は倫理的に、性慾の知識の普及の必要を、他の諸方面の知識以上にさへ必要であると、同性のために思つてゐるものです。けれども性慾が人類生活にとつてはかなりに重要な中心問題であるだけそれだけ、深い良心の

背景を、これを説く人に期待せずにはゐられません。性慾の最も神聖にして貴いといふ意味は、性慾が生命の最高の創造である意味に於てゝあつて靈性の輝きなき時に於ける性慾の解放は自由ではなくして、それの冒瀆といふべきでありませう。「愛と認識」の出發の著者の性慾觀の如きは、一派の所謂性慾學者からは、性慾否定の時勢遅れの説となすかも知れませんが、しかし私には、あの恐ろしい嚴格に見えるトルストイ流の性慾觀の中にこそ、性慾の眞の解放の意味を讀んで見たいとさへ思ひました。横道へそれたやうにも思ひますがとにかく、近頃性慾成金の殖えた事をきく事は私には悲しい喜劇のやうな氣がするのであります

（はつ）

救はれた浮田博士

今春歸朝された浮田博士が、或る會の席上での歐米所感の一節です。博士は三十年前に同志社の方から渡米されたが、先方へつくと眼につくものが賴に觸るものばかり、殊に日本式の奥淑な女になれた眼には米國の婦人の威張つてゐるのが厭で堪らずそれやこれやを母國の雜誌に不平文を通信すると、それが日本へ來てゐる宣教師の眼に止まりそれを英譯して博士のゐた大學地の新聞に載せたので、學校からは呼出されて説諭される。下宿の婆さんと喧嘩をするして、たうとう一年半で日本へ逃げ出すやうに歸つて來ました。同志社からその後早稻田へ轉じたのも、宣教師さ交渉があるのを厭ふてださいふそろです。そこで三十年ぶりに渡米して見ると米國の騷々しい事と女と威張つてゐる事とはやつぱり前と同じく眼についたが、しかし、今度はつら〳〵考へて見て「どうも文明の經路は一度はこの騷々しい中を通らねばならぬものらしいといふ事、また婦人も威張つてはゐるが活動ぶりを見れば、さても日本の婦人のやうぢやいけない、」と痛切に感じられたさいふ事です。そして喧嘩をした下宿を訪ねると息子や姉は死んだがまだ婆さんは八十近くなつて孫と貧しく生きてゐたので、まだ生きてゐたのか、「仲直りに來た」といつて三十弗を贈つて來たが今度の旅行中で嬉しかつた一つだと笑はれました。

小兒勞働者に代って
小兒權の復活を要求す

故 遠藤清

十九世紀は婦人問題の世紀であつた。然し現代は小兒の世紀である。と歐洲の識者は云つてゐるさうであります。これは獨り歐洲のみならず、現代の科學文明を採用してゐる文明國の一度は經なければならない必然の過程であります。然し婦人問題が、婦人の經濟的獨立を出發點として、其從屬的生活から個人としての權利及自由の復活を呼び起したのに反して、小兒の問題は、小兒が資本制度及生活難の結果として勞働市場に押し出され小兒天與の從屬的生活權を失なつた事に起因してゐるのは面白い對象であります。然し婦人問題と云ひ小兒問題と云ひ名と起因は異なつても、根本は一つなのであります。何故なれば兩問題とも、要するに人類各種の不自然な階級を撤廢して婦人は婦人として、男子は男子として、成年は成年として、小兒は小兒としての天與の權利を享有せしめ、各自々由に幸福に生活し、或はせしめやうと云ふ意味に外ならないからであります。現代に於ける資本家と勞働者との爭鬪、權力階級と無權力階級との爭鬪も要するに此一點に歸着するのであります。

それは兎に角歐米に於ける小兒問題は物質文明の副產物として生れた慘ましい犧牲に對する救濟の呼び聲なのであります。

抑此慘ましい犧牲の出現は、科學の發達に起因してゐるのであります。何故なれば、科學の發達

は必然に機械工業の勃興となり、家内工業は衰退すると云ふ結果に導かれます。從つて今迄家庭内に在つて子女を保育しながら家内工業に從事してゐた者や父母の膝下にゐて手傳をしてゐた少年少女等は其仕事を失つてしまつたからであります。加ふるに物質文明の進歩につれて、生活の程度は高まり、中流以下の無資產階級の人々は、父或は夫の收入に頼つて生活する事が不可能になつて來ました。此に於て妻も母も家庭を離れて職業を求め其賃銀を以て生活費の幾分を補助しやうとするやうになつたのであります。然し生活難の波は家庭から母や妻をさらつたゞけでは靜まりません。年と共に其波は高まつて遂には可憐なる少年少女達をも勞働の海へ押し流さねば止まなくなりました。彼等少年少女等は嬰兒時代にさへ長閑に母の懷に夢みてゐる暇もなく小兒委托所に預けられ、さうして十歲か十一歲にもなれば、父母兄姉と同じく勞働市場に賣られるのであります。かくして彼等は小兒として享有すべき權利を、生活難と云ふ冷酷な暴君のために全然奪はれてしまふのであります。のみならず、小兒達は過激な勞働と、周圍の惡弊のために、精神も肉體も傷けられて遂には病弱な肉體と、墮落した精神との所有者になるのであります。歐米諸國の識者達は夙に此慘しい犧牲者を救はうとして、既に一世紀以前から研究調査を重ねてゐるのであります。然し生活難と云ふ冷酷な暴君は、此不幸な犧牲者を解放しないばかりでなく、月々年々に其手を擴げて益々猛威を振つてゐるのであります。然し我國は物質文明の到來も歐米諸國よりは遲く、從つてこれらの犧牲者も少なかつたのでありますが、今や此暴君の手に征服されかけて來ました。最近に至つて我國も婦人と小兒との勞働者が夥しく增加の傾向を示してゐます。其筋の調査によりますと、十六歲以下の小兒職工の數が、全職の一割八分五厘餘で纖維職工の約三割を占めてゐるのであります。其內十四歲以下の幼年職工が(大正三年末の調査表によると)約四萬人であります。先年來朝したウエップ氏はこんなに多數の幼年工を使用する國は歐米諸國にも類例がないと云つたさうであります。

これは將して歎ぶべき傾向でありませうか？私は小兒勞働に就て賛否を云ふ前に、歐米諸國に於ける小兒の勞働の肉體及精神に及ぼす調査及觀察者の談を擧げて讀者の參考に供へようと思ひます。

英國工場勞働調査會の報告は

『我國では千八百五十三年頃は幼年勞働者は終日終夜働かされてゐた。さうして幼年職工の居眠りを防壓するために監督者等は鞭を使用した。これらの不幸なる白人奴隷は過勞の結果病氣すると他の新らしい職工を入れ替へるために殺された者もあるとさへ云はれてゐた。』と書いてあります。其後英國では屡法令が改正されて遂に十二歳以上と規定され、勞働時間は五時間半迄と規定されました。千九百八年當時には小兒勞働者は約八萬二千と數へられました。其中半數は半日勞働者であると云はれてゐます。此半日勞働とは、午前六時より正午までは工場で働き、午後は通學する者を云ふのであります。これは小兒勞働五時間半と云ふ規定にもとづいてゐるのでありませう。

英國北部の工場を視察した或英人の談によるとそれらの工場は空氣の通流と云ひ光線の工合と云ひ、綿埃や熱度の調節と云ひ殆ど完全してゐた。然しそこに勞働してゐる小兒は半日勞働者であつたが、皆顏色青く、目の下は黑ずみ、足は長時間立ち續けのためひよろ〳〵してゐた。これを見ると小兒を勞働せしむる事は決して健全なる國民を育つる方法ではない、と云つてゐます。

然して我國は如何でありませうか。大正六年末の調査によりますと、十五歳以下の小兒勞働者の平均一日の就業時間は一一、八と記されてあります。即約十二時間であります。六時間勞働の英國小兒でさへ視察者の語る通りであるとすれば、工場の設備も衞生も遙に英國より劣つてゐる我國の工場勞働者が健康を害されつゝある事は考へる迄もない事であります。

又プラットフォルドの或醫師が、半日勞働の小兒の學校の成績に就て校長に質問を發した事があります。それらの校長の報告によると、工場生活をしてゐる小兒は心が荒み、道德的良心が減退し勞働から得る收入のために獨立心が盛んで敎師の

訓戒などに服從しないやうになる。故に教育の効果の五十%は失はれる。と云つてゐます。

英國にはこれらの工場法取締以外にゐる勞働小兒があります。それは學校時間以外に勞働をしてゐる小兒達であります。この小兒達は尚一層弊害が多いのであります。

英國婦人勞働會の一員であつた故エフ・ジー・フホッグ夫人は、ロンドンの小學校に通學してゐる小兒達の大多數が、此自由勞働者である事、彼等は午前四時から學校始業時間まで勞働し、それから學校に出席し、正午から午後の休憩時間には又勞働をし、更に午後の授業を受け、退校後は又勞働に從事してゐる事を發見しました。のみならず彼等の中には午後九時或は十時までも勞働してゐるものゝある事をも知りました。フホッグ夫人はこれらの小兒勞働を取締ることを時の文部大臣ジヨン・ゴルスト氏に提議しました。大臣はフホッグ夫人の實驗談に動かされ、教育局、内務省、及商務局から委員を選び、インター・デパートメントと名づけて學齡兒童の勞働を調査させました。此委員會は千九百一年の春から夏にかけて開かれました。委員等は、校長、教師、學務委員、工場主、商店主等學齡兒童勞働者に關係ある人々と會見して委しく調査しました。

職業小兒調査委員は、此問題に趣味を持てる校長、教師、社會主義者達の研究によつて小兒犯罪が七千件あつた事を報告しました。其中約四千はロンドンの事件で、三千は地方の事件でありました。議會の報告では、イングランド及ウエルスの小兒の四%は勞働に從事してゐる事を發表し、職業小兒調査會は小兒の九%が勞働に從事してゐる事を證據立てました。これらの調査を統計すると英國では二十萬の小兒が通學時間以外に賃金取りのために勞働し十萬の小兒は半日勞働に從事してゐる事になりました。この調査が決して誇張でない事は、千九百〇六年に再び調査した結果大體の人員に變化がなかつたのを見ても信ずる事が出來ます。

勿論これらの小兒は工場勞働に從事してゐるものばかりでなく、商店、小企業等に雇傭されてゐ

るもの丶總數なのであります。さうして小兒の精神に及ぼす害は或場合には工場勞働以外の自由勞働、即街路商をしてゐる者に一層甚しい結果を示してゐるのであります。英國監獄調査會の報告中にワンズヲルス監獄の教誨師が次のやうに云つてゐます。

『街路に於て新聞賣子をして生活をしてゐる小兒等を救ふに何が最必要であるかを調査委員等に覺らせたい。彼等の日常生活は新聞賣りの合ひ間合ひ間に竊盜や賭博に耽る事である。彼等の生活は竊盜と賭博が殆ど副業であるかの樣にさへ見える故に十六歲乃至十五歲以下の小兒には絕對にこれらの勞働を禁止し、彼等を總て學校に通學させなければならぬ。政府は彼等の勞働を禁止する時間中は彼等を補助せよ。かくすれば多くの哀れな小兒等は犯罪の生涯から救はれるに相違ないと私は確信する』と。

　此教誨師の言葉は引いて我國小兒勞働問題を研究する者に好個の參考となるでせう。我國でも最近十年以來小兒新聞賣子の增加した事は著しいものであります。これに就ては正確な統計を得られませんが東京市中だけでも少なくとも數百人は下りますまい。これらの小兒等が街路に立つて新聞を呼賣りしてゐる間にどんな惡感化を受けるかは英國小兒の例を見ても想像するに難くはありません。然るに我國にはまだ小兒勞働が識者の間にさへ考究されてゐないのであります。只僅に大正五年九月一日施行になつた工場法の中に工場勞働に從事する小兒のために四五の條令が規定されてあるだけであります。英國小兒勞働保護法によれば十二歲以下の小兒は絕對に勞働に從事する事を禁じ、小兒勞働時間は五時間半と規定されてゐます。之を我國の十五歲未滿の者は一日十二時間以上就業せしむる事を得ず。但業務の種類により本法施行後十五年間を限り前項の就業時間を一時間內延長する事を得ると云ふのと比較しますと雲泥の差であります。

　小兒勞働の精神及肉體に及ぼす害は英國の調査を見ると眞に恐るべきものであります。千九百六年ロンドンの郡會で小兒雇傭條令を作るために、

ドクトル●トーマス氏に職業小兒の體格の調査を委托しましたが、其報告によると、一週二十時間乃至三十時間勞働をしてゐる小兒の中八十一%は過勞のため身體衰弱し、四十四%は神經衰弱の徵候を示し、商店の店員として雇傭されてゐる小兒の二十一%は重き荷物を運ぶために心臟病に罹つてゐた。理髪店の小僧の六十二%は神經病の徵候があり同じ職業の七十二%はアニミア病患者であつたと書いてあります。これを見ても年少兒童の勞働は肉體を病弱にするものである事は疑ありません。

更に小兒勞働の精神に及ぼす惡感化は又一層甚だしいのであります。バーミングハムの警部長の報告によると十六歳以下の小兒犯罪者の三分の二はバーミングハムで六ケ月間新聞賣子をしてゐたものであつたと語つてゐます。又マンチエスターの警部長は十五人の少女犯罪者が總て新聞賣子であつた事實を證明してゐます。商店に雇傭されてゐる小兒にも犯罪者が屢あります。これは金錢を取扱ふ間に不知不識誘惑されるのであります。

これらの報告及調査によつてロンドン郡會條令は英國小兒勞働法護法に修正を加へ、十六歳未滿の少年の新聞賣りを禁じ、午前六時前、晝飯時間內及午後八時以後小兒を使役する事及通學時間以外に一日三時間半以上、一週二十時間以上勞働せしむる事を禁止しました。英國議會には每年小兒案と呼ばれてゐる案が提出されてゐます。これは小兒犯罪を大人と全然區別する爲の案だと云ふ事であります。

獨逸では十九世紀の末葉から社會民主黨の一團によつて小兒勞働に對する禁止運動が始められてゐます。獨逸の當時の營業規則によれば十人以上の勞働者を使用する工場又は企業に於ては十三歳以下の者を使役する事を禁じ、就業年限中の者は十三歳以上と雖使役を禁じてゐたのであります。其後此規程は兒童保護法及家內勞働法によつて修正され、或種の企業に於ては十四歳以下の小兒勞働を禁止しました。又許可されてゐる企業でも他人の小兒は十二歳以上、我兒は十歳以上迄は使役する事を禁止し、又午後八時より午前八時迄は小

兒を勞働に携はらしむる事を禁止しました。此條令適用の結果は左の通りでありました。

年次	十二歳以上十四歳迄の幼年勞働者	十四歳以上十六歳以下の小兒勞働者
一八八二年	一四、六〇〇	一二三、五四三
一九〇八年	一二、〇六三	四四〇、二五五

獨逸社會民主黨の小兒勞働禁止は單に工場的企業に限らず、小企業家内勞働及農業勞働をも含めてゐたのでありますが、家内勞働の禁止は之を監視する事困難であるため實行出來なかつたのは遺憾でありますが、然し此運動の結果として、小兒勞働保護法が修正せられ十四歳以下の幼年勞働者の數が表に示す如く減少したのであります。

米國マッサチユーセッツ州に於ては千八百四十二年フォールリバー市の有志の建議によつて、十二歳以下の小兒の勞働時間を十時間に限定しました。南北戰爭始期の頃には、ニユーハムプシア、メーン、ペンシルバニア、ニユージャージー、オハイオの諸州でも此條令を採用してゐました。カネチカット州に於ては十三年後に至つて此條令を修正して十一時間とし翌年更に十二時間に延長しました。ペンシルバニア州にては紡績業に限り十二時間制を許可しました。

ロードアイランド州に於ては千八百五十三年に十三歳以上十五歳未滿の一日の勞働時間を十一時間以下と限定しました。イリノイス州は千九百三年に十六歳以下の者の勞働時間を八時間に限定しました。此イリノイスの條令はコロンビア地域及十八州でも同時に施行しました。モンタナ、ウエストヴアジニア州は十六歳未滿の兒童を工場に使役する事を全然禁止してゐます。のみならず、米國識者の中には小兒勞働に對して反對の聲が年を追うて高まつて來てゐるのであります。米國上院議員エー・ジエー・ビベレッヂ氏はかう云つてゐます『極最少度限度に見ても我合衆國には十四歳内外の小兒勞働者が五十萬位はある。彼等は紡績工場、硝子工場、鑛山其他で働いてゐるのである。これらの五十萬の小兒は假令其勞働のために生命を失はないにした處が決して完全な趣味を持つ事は出來ない。彼等から適當な敎育を受ける機會を奪ひ

産業生活の危險と壓迫とに服させる事は、道德、産業、政治の各方面からみて確に罪惡である。我國では傳染病豫防の爲に檢疫所を設立し年々過大な費用をそれに投じてゐる。然し他國人の持つて來る傳染病は二十人の人間を殺しはすまい。然るにこれ程の大げさな設備が設けられてゐる。それにも拘はらず毎年何千の小兒を死亡せしめ、何萬の小兒を一生涯不幸に終らしめる小兒勞働を禁止しないのはどう云ふ理由からであらう。』と。

又ハーバート大學敎授トーマス●モルガン●ロッチ博士はX光線で工場勞働に從事してゐる小兒の體格を試驗した結果、それらの小兒の大多數が生理的不具者であつた事を發見したと報告してゐます。

かうした多大な犧牲をはらつて得る小兒勞働者の賃銀は米國でさへも六弗以上十二弗以下であります。英國の小兒勞働賃銀は平均一時間一ファーシングであります。我國では大正六年の調査によれば、十五歲以下の男工が一日平均二十三錢、女工が一日十八錢であります。如何に生活難に苦しんでゐるとは云へ、これ程の小額の收入を得るために小兒を一生涯不具者としても悔いないと云ふ事は確に道德上許すべからざる罪惡であります、

茲に是等の哀れなる小兒勞働者達のために快心の運動があります。

此運動は千九百十年から「小兒權復活』として米國小兒勞働委員會によつて宣傳されてゐるのであります。此委員會等は以下記述してある決議文を合衆國議會に提出してゐるのであります。其主意は、單に小兒の勞働を禁止するばかりでなく、此決議文中に記されてある如く、小兒の精神肉體を充分に發達させるために、働かずして衣食する權利、及平等に敎育を受くる權利、遊び夢みる權利等小兒天與の權利の復活を主張してゐるのであります。

千九百十年米國小兒勞働者は左の決議を發表す

此處に我々米國の子供は自由に平等に生れたるものである。

然るに此自由の國に生れたる我々は今尙奴隷の狀態にゐる。我々は終日終夜勞働させせられてゐ

る健康、安全、時間、賃銀、勞働條件に關して何等制限する事なく、且又勞働の報酬を自身に受取る權利もないのである。故に次の決議をなす。

一、子供は天與の權利を持つて生れてゐる。其權利とは、働かずして衣食する權利、遊び學みる權利、夜は充分睡眠を執る權利、我々の精神と肉體を充分に發達させる平等の機會を持ち得るために教育を受ける權利がある。

二、我々は無力で從屬である事を告白する。我々が從屬たる事は又我々の權利である我々は小兒の權利を享有し保護されるため、我々の無力である事を訴へる。

三、我々米國の小兒は勞務を全廢し、我々小兒の天與の權利を復活する事を要求す。

これが小兒權復活の宣言なのであります。此運動は目下ニューヨーク、マッサチユーセッツ、オハイオ、イリノイス、ウイスコンシン、ネブラスカ、モンタナの諸州で熱心な賛成を得てゐるさうであります。私は此運動の成功を熱心に希望するものであります。同時に私は我國の小兒達、特に小兒勞働者達のために此主張を代辨しようと思ひます。（續出）

奥さん違ひ

といつては巫山けた事に聞えませうか、五月三十一日の讀賣新聞に公表された馬鹿々々しい間違話です。三十日に讀賣の記者の一人が、協會の假事務所に一時、間借してゐました有樂町の兒玉氏宅へ、「奥さんはいらつしやいますか」といつて來られた。女中さんが「ハイいらつしやいます」と取次いだのは理事の奥むめおさんへでした。奥さんは「私は理事をしてゐますが」といふさ、記者の方では兒玉さんの奥さんの積りで「いつ頃から」ときかれて「去年の一月からです。しかし家庭を持つてゐるので思ふやうに働けませんでした。今後は出來るだけやりたいと思つてゐます」と附加へました。記者の方では、てつきり兒玉さんの奥さんが理事だつた事にさつて、さてこそあの記事になつたのでした。これを見た兒玉さんの奥さんと理事の奥むめおさんとは大笑ひをしました。新聞社へ取消の電話をかけると、「たしかに「奥さん」が仰しやつたのだからその必要はありますまい」とて、どこまでも「奥さん」違ひで濟みましたので、こゝに、事實を記して誤報を正しておきます。けれど今月から事務所を麹町內幸町一ノ六と定めましたから、この後「奥さん」違ひは起るまいと思ひます。

夢のプロヒル

淺原禎

くるしいと思へば
ひとりぼつちの窓にきて
お前をながめる
おまへのさびしいマナコの
おまへの笑ひ多きくちびるの
おまへの
あたたかな胸のやはらかさの
尊さをあぢはひ
おまへをながめる
おまへは遠くひとり
そして

私もひとり
ゆめと
ゆめと
かぎらつて
たそがれの陽にきゆる
きえた空のたそがれは
いつまでも
サヨナラサヨナラ
と云つてゐる
ああ本當におまへは
わたしの
さびしいゆめの横顔（プロヒル）だ

夜のおもさ

さびしさに
なえて

電燈も
ほそり
つのりゆく
しづけさの夢

あかつきに
とほく
ふかき夜の
おもさ
しみじみと
追想に
つかれ
指をかみつゝ
ただひとり居ることの
くるしさに
なみだす

妻たり母たる立場

エッチ・ジイ・ウエルス

現代の心ある妻及び母親に當面した一つの問題がある。

抑々婦人には最も重大なる任務、即ち次代の家庭を造り上げるといふ大任務が降りかゝつてゐるのである。然るに社會はこの重任を正當に認めようとしてゐない。彼等は、婦人の任務を目するに或る特定の男子を喜ばせ滿足せしめる爲めと考へ神及び世界の爲めである事を思はないのである。即ち現在の我々の法律も、因襲も、經濟組織も共に婦人が母性たる義務を果すには、夫に依屬するより外に手段なからしめてゐるのである。夫は多くの場合支拂主であるが故に、もし支拂主たる夫が支拂を怠れば彼は家庭を破滅せしむるの外はない。そして妻としての義務は夫に對するものを以て第一とし、子供や國家に對するものは第二位に落されてゐるのである。斯くして多くの婦人は夫の娼婦となり、屢々夫の許諾或は要求によつて子を持つ事を避ける事さへある。これは我々の文明を生んだ家族所有制度の自然の結果である。さりながら近代思想の著しい傾向は女子の第一義務を子供及び彼女がその子供を與へる社會に對するものとすることである。然らば妻は夫と同等の市民たるべきである。

然るに現在の事實を見れば、因襲的の夫は妻と社會との離間者となつてゐて、多くの婦人はこの狀態に自己の人生觀を適應せしめねばならないのである。

母性の仕事が如何に高尚なる社會事業なるかを知る聰明な婦人の擇ぶべき道は何であらうか、グラント・アレンの描いた女主人公の如く、極端な

獨立を主張し結婚の桎梏を拒否して情人の子を產まんとするか。然らば婦人は稼ぎ人と母親との二役を兼ねなければならぬ。從つてその「父なき家庭」は甚だ貧窮なそして現在の社會感情には全く容れられぬものとなる。假令理論に於て正しく假定しても、これは私有財產の放棄を意味するもので一種の自滅と言はねばならないのである。

　然らば婦人が、ストライキを試み結婚せず子を產まずして何等かの職業に從事せんか、これも亦人生の最も佳き經驗、即ち生命の捧ぐべき最も尊きものを失ふ點に於て自殺の一種である。

　或は婦人は自己と思想を同じくする男子、即ち妻の自由なる獨立人格を認め、命令的の態度を廢し、收入を共有せしめ、もしくは潤澤な私收入を與ふる夫を求むべきか。私はこの點に於て法律上の結婚誓約を現代思想と一致せしめる事はさまで難くないと信ずる。少くとも一人の子供が生れる度びに父親が收入の新方針を樹つべしといふ法律上の命令は結婚の普通な條件であらねばならぬ。そして妻は夫の支拂が杜絕した時に夫にその履行を迫る權利を賦與せらるべきである。斯の如き保障を得て初めて結婚が婦人にとつて偶然的依賴ではなくなり、婦人は自由に生活し、養育する事が出來るのである。

　併し乍ら多くの婦人は年若く無知の間に結婚するが爲めに、斯樣な重大な事實に氣づいた時は既に結婚の後、或は子の母となつた後である。斯くして夫は妻と同じ思想を持たない時があり得るしまた彼は主權を振り廻し、妻を制禁し、義務を怠り、或は進んで彼の庶子の扶養と共に家庭經濟の重荷をも妻に課する事があるのである。

　吾々は現實のこの社會に住んでゐるのであつてあるべき社會に住んでゐるのではないといふ常傳語は以てこの議論を次のやうに結ばしめる。

　現代の既婚婦人はこの舊習の下に在つて新らしき世界に生くべく最善の努力をせねばならぬ。彼女の取るべき道は、自らを異常な支配と不正確な支拂とを受けてゐる一人の隱れたる公吏と考へることである。急激な反抗によつては何物も得られない。來るべき機運を待ちつゝ各自の境遇を洞察

しその改善に努むる事が肝要である。私は現代の先覺者を以て任ずる人々が、糧道を絶たれて糊口に窮し果ては墮落に陷る有様を想像するに忍びない。我々は忠誠なると共に賢明でなければならぬ。

聰明は即ち來るべき國家への忠誠である。

（H Y 譯）

明治より大正に亘る婦人の政治運動（下）

奥むめお

獨特筆すべき女丈夫として高場亂子があつた。亂は俗に人參畑の先生と呼ばれてゐた人で、筑前國の人參畑で眼科を業とするかたはら家塾——興志塾を開いてゐた。明治初年の勤王の士や自由黨士の中で、その塾に學んだものが大變多い。（玄洋社々長平岡浩太郎、矯志社々長武部小四郎、强忍社々長越知彦四郎、向陽社々長箱田六輔や頭山滿來島恒喜等）亂は常に太刀を佩ひ、頭を茶荃にして袴を着、馬に騎して、極寒でも重褞を用ひたことなく、いつも竹の皮で作つた甚八笠を被つてゐたといふことである。養子應が母と呼ばないで、父と呼んでゐたが、亂もまた反つてその方を喜んでゐたといふだけでも、その爲人の程度が解るやうに思はれる。澤山の逸話の傳へられる人であるが、とにかく男まさりで、慷慨の士であつたらしく、當時の青年が競つてその門に馳せ參じ、又多くの國士、志士がその門から出た事などは、たしかに亂の偉大な爲人を證明してあまりあらうと思ふ。

* * * *

前述の如く、三百年來の泰平に醉つてゐるところを黒船に脅威された頃から、漸く幕府の礎にヒ

ピが入つて、大政奉還の運びに移つた頃までの當時は、特に女子の身を以て政事に奔走する者が多かつた。云ふ迄もなく、彼女等の多くは、國家多事の時代の風潮に煽動せられていたづらに東奔西走してゐたものではなくて、確固とした信念を持つて國家に身を捧げてゐたのであるが、所謂内助の功勞者で、其の夫や子供を勵ましたり、慰藉したり、感化したり、更に或ひは炊事萬端、身のまはり一切をひきうけて、その運動を助けたりしてゐたので、これらを純粹の女子の政治運動と目することは許されぬ。

明治初年より治警法發布まで

明治初期は維新の大業成つて而も未だ新秩序の出來ない、蜂の巣を突ついたやうな混沌たる時代であつた。三百年來打續いた徳川幕府を朽木でも倒すやうに無造作に打倒した青年の意氣を以て、あらゆる因襲を打破してかゝつたのであるから堪らない。萬事に潑溂とした新鋭の意氣を以てぶつつかつて行つたものである。明治五年に新聞紙の刊行が許可せられて言論の自由を得てから、當時の青年は擧つて政治上の諸問題に就いて、熱烈火を吐くやうな言論を發表した。そして彼等の發表する書生論が決して、實行の伴はない空論でなく實際生命まで投出してかゝつたものであつたために社會の大勢力となつて、眠れるものを喚び醒し、醒めたるものを起たざるをえざらしめる程の大刺戟となつたのである。さうして明治十年前後には佛蘭西に源を發する自由民權の思想が天下を風靡するに至つたのである。實に當時は、自由を口にする者でなければ新思想家でないとして輕蔑せられた程で、青年はみんな自由を口にし合つた。

斯ういふ時勢の裏から、女大學式に仕込まれた舊道徳を一蹴し去つた婦人の立場を反省し、これではいけないと振ひ立つ女性が出て來るのはあまりに當然な事である。殊に當時は、一般に政治的空氣の濃厚な時であつたから、いきほひ、女子もその影響をうけないで過ぎる事は出來なかつた。

普通民權自由論者の女子としては、中島湘煙女史と福田英子女史とが記憶せられてゐる。湘煙女史は既に不歸の客となつたが、英子女史は今なほ

健在にして、次つぎに起る婦人の運動につねに理解と同情とを以て聲援せられてゐる。

　中島湘煙女史は岸田俊子として記憶せられてゐる。中島姓は、後に第一回目の衆議院議長中島信行と結婚したからである。女史は但馬國豊岡の呉服商に生れたが、幼少から今の法學博士添田壽一氏と双べて二神童と稱されたといふ事である。擢んでられて宮中の女官となつたが、三年の後廿一歳にて退いてから、一變して政論家となり、政治結社に加盟してつねに男の群に混つてゐた。婦人問題に就いては特別に考へてもゐなかつたやうであるが、兎に角當時の專制政治を惡んで、政府攻撃、藩閥打破を絶叫して自由民權を主張し、盛んに政談演説をしてまはつた。この頃は政府の抑壓手段が最も峻酷で、民間の政客を屏息した姿であつた時分であるから、とりわけて年若い美人の政談演説が注目され、人氣をよんだやうである。明治十六年滋賀縣で演説をしたとき、其言論が當局の忌諱に觸れて投獄せられた頃は、渇仰の聲が八方に充ちてゐたと云ふ。その翌年中島家に後妻として入つてからは、政治の表面に立つた運動はしなかつたが、所謂黒幕となつて駈引位はしてゐた。とにかく生來蒲柳の質であつたから、嚴寒の獄中生活はかなり身にこたへたらしく、晩年は殊に病弱であつたと云ふ。

　なほ女史は多藝多能にて、丹青の技すぐれ、書をよくし、詩を作り、俳句を作り、文章もまた素人離れがしてゐる。又禪も相當に悟達の道に進んでゐたと云ふ。晩年は大磯の別邸に靜養して外界との交渉をもたなかつた。「湘煙日記」の著がある。女史を以て日本に於ける婦人參政權運動のさきがけとみる事が出來る。

　福田英子女史は例の大阪事件に加はつた人として有名である。母梅子氏が非常に學問才識の勝れた人でその教化か、女史も幼少から聰明で女學士と呼ばれてゐたさうである。十六年母者を助けて蒸紅學舍といふ學校を建てゝ、女子の智德開發に貢しようとしたが、暫くして當時の縣令に依つて閉校せられた。丁度その頃朝鮮に於ける形勢面白からず、大井憲太郎、小林樟雄等の朝鮮計畫があ

つたので、女史は富井於菟女と共に、自らこれに身を投じたのである。當時の公判傍聽筆記を見ると、…………兼て學問を以て國につくさんとせしも此政府の下にありては萬卷の書をよむも民權を盛ならしむるの望みあるべからずと存じ、斷然學問を廢したり云々とあり。そして名を不恤緯會社（女子教育を盛ならしめんとするもの）に藉り資金調達に奔走し、女の身を以て、密かに檄文や爆發物を運ぶ役を引うけた事は殊に多くの人の記憶に新たなところである。なほ獄中より十五ヶ條の述懷書を提出したが、これについては秘密裁判の形式で尋問されたといふ事である。

二十二年の憲法發布と共に大赦に逢うて出獄し大阪で松永國家、竹中りよ、島津政等と共に女權擴張の目的で關西婦人大同會を組織せんと計畫し又、一夫一婦の建白書を提出したりした。それより後社會主義者に親しんで、社會主義運動に熱心になつた。「世界の婦人」を發行してゐたのもその頃である。

その頃下田歌子、松本荻江、中川幸子なども民權自由の空氣を呼吸して、政治上の野心を持つてゐたさうであるが、間もなく二十五年治安警察法で婦人の政談集會に會同し、結社に加入することを禁ぜられて政治方面に羽翼を伸ばす機會は永久に奪はれてしまつたので、沈默するより外なかつたのである。國會が開けたならと、女子の前途に望みをかけてゐたものも、憲法は婦人の參政權を認めず、あまつさへ治警第五條で、更に女子の權利を制限されてしまつたわけである。

行政治警第五條の如き女子の政治的自由を拒む法令が必要とせられたのであらうか。私は本誌第六號に寄せられた芙蓉女史の「婦人の政談が禁止される頃」なる文より、左の如く引用したいと思ふ。

「艶な投島田に濃化粧をし、髮の毛のほつれを、その頃流行つた大きな肩掛けに被ふた妙齡の婦人が傍聽席から、ヒヤ〳〵ノー〳〵と聲援したり、妨害したりするのを見て、私は寧ろ不思議な世界の發見に驚きの眼を瞬つたことを今でも忘れません。いつの演說會にでも、婦人席は滿

員でした。屢々開かれた婦人政談演説會には彌次馬の男子雲霞の如く押寄せて、大かたはませッかへしで終るのでした。上野廣小路の末廣亭の二階の陷落したのも、婦人政談演説會のドタバタ騷ぎからでした。

斯くの如き狀態で、同志は逐に同志の爲めに誤まられ、得る處は一もなく、徒らに世の嘲笑を買つたのみの女政客の末路は、消ゆるやうになくなり、治安警察令は程なく發布されたのでした……』

また政治方面には關係がないが、當時の新しい思想を以て、男女同權とか、女子敎育などに就いて考へ、女子の地位向上のために可なりに氣を吐いたものとして、吉岡彌生、木村秀子、戶田極子三宅龍子などがあつた。

二十五年以後

二十五年以後は覺醒した女子の間にも政論を口にするものは殆んどなく、その生活は內的方面に向つて、むしろ文藝に親しむやうになつて來た。それであるから、治警第五條の禁令が如何にも不法であるにかゝはらず、その改正を熱望して運動する者も出なかつたが、三十八年になつて、當時「二十世紀」といふ雜誌を經營して婦人の啓蒙に努力してゐた今井歌子、河村春子等、及び平民社の社會主義婦人が一團となつて治警五條改正の請願書を提出した。その趣旨に贊成して調印したものが五百餘名あつた、紹介議員は江原素六、島田三郞兩氏であつた。當時は丁度日露の大戰がすんで我國民は戰捷の餘榮に醉つてゐた頃で、やがて思想界は急激に變轉して政治、法律、制度等あらゆる方面に改造が叫ばれ、政治方面では堺利彥氏一派の人々が社會主義の立場から普通選擧を高唱し文藝界では田山花袋氏一派の自然主義的人生觀が當時流行の自然主義小說に依つて唱道せられ、婦人の解放をとなへて專ら舊道徳の破壞につとめてゐたし、大學の開放も數名の女子に依つて叫ばれてゐた。

斯うした世態の渦卷から、治安警察法第五條にかゝる女子の政治的自由を拒む惡法を除かんとして、前記今井歌子、川村春子氏、遠藤淸子氏等が

起ち、解放のための請願運動を始めたのである。請願第一回は、衆議院は採擇になつたが貴族院にて否決されて失敗に終つた。第二回第三回第四回はつねに、頑冥なる貴族院にて否決されました。とは云ひ乍ら輿論は、年を追うて贊成に傾き、著しく眞面目に考察せられ論議せられるやうになつて、請願第四年に至つては、政府側も漸く婦人の熱心と社會の輿論に動かされたらしく、請願有志の個々人の身分教育等に就いて調査する迄に至つた。斯くしてこの運動の曙光がみえ初めたにも關らず、當時の主唱者遠藤清子氏が氏自身の精神的大變動に遭遇して中絶せらるゝに至つたことは、婦人界のために、更に社會一般のために返す〴〵も遺憾なことであつたと云はねばならぬ。また大正八年わが新婦人協會にて、平塚氏等が再び此の問題を提げて起つまで、十數年間たれ一人としてこれこの提案をしなかつたといふのは、寧ろ不思議でもあつた。私はこの原因を、今日の我國の政治があまりに民衆とはかけ離れたところにて行はれてゐる點に歸したいと思ふ。政治即ち我々の日常生活の觀念を持ちて、政治的に其自由を奪はれてゐるといふ事が、單に不合理であるばかりでなく此の上もない不利、不便である事に我々婦人が目ざめて、政治の上にも自分達婦人の力を試みん事を欲し、それを妨ぐる凡ゆる障壁を突破するだけの意氣を持ちたいと思ふ。

× × × × ×

婦人の政治運動史として社會主義婦人の活躍史も是非書き加へるべきものゝやうにも考へられるが、これは今少し廣義の、所謂社會運動史の方にゆづつてこゝには便宜のために省く事にした。なほ或る地方或ひはある階級の小範圍に行はれたもので政治運動に屬すべき性質の運動もあるが、遺憾ながらそれらをまとめる餘裕をもたないので、亦別の機會に追補したいと思つてゐる。（終り）

婦人相談欄

□戀愛問題　□結婚問題　□家庭問題
□子供問題　□教育問題　□生活問題
□其他一切の煩悶の御相談を歡迎します

離婚の要求は不道德か(問)

私は東京の某校に在學してゐる者ですが、郷里には廿一歳になる妹をもつてをります。この妹は土地の高等女學校を卒業し、昨年四月中世話する者があつて、郷里から十里ばかり離れてゐる土地の商家の長男で、二十七歳になる男と結婚しました。兩親や妹を通して聞いた所、自身の見た所とを綜合すると、妹の夫は土地の商業學校も卒業出來ずに中途で退學した男で、自家の商賣も眞面目にはしず毎日遊び歩いてばかりゐる。それに非常識と極端の神經質とが一緒になつて、ちよいとした事も無闇に氣にして、その結果妹を足蹴にするといふやうな事も珍しくはないのです。妹は結婚後間もなく再三足蹴にされたので、我慢がしきれず生家の兩親に打明けた。兩親は聟を呼んで詰じると、聟は涙を流してわびたが、直ぐに又前通になつてしまつたのです。かうした場合に聟の兩親は何うかといふに、母は精神病者で、てんで問題にならず、父は無上の好人物で、伜の亂暴を怖れて只默つてゐるといふ有樣です。妹は何ういふ氣がしてゐるかといふに、かうした何一つ尊敬すべき點のない夫と同棲してゐるのは辛い、本意は一も二もなく離縁したいのであるが、女學校までも卒業したことのある名譽ある自分が、離縁をしたと云つては世間に對して面目がない。死んだ氣になつて辛抱してゐようといふのでした。然るに此頃になつて國の母から私に相談として、妹は何うでも離縁を決行したいといふが、先方の父が若し妹が離縁を取るやうだと、自分は失望して死んでしまふとまで云はれるので、その情にほだされて躊躇してゐる。何うしたらよいだらうと云つてきました。私の思ふには現在のやうな状態を續けて行つたら妹はいふ通りに死んでしまふだらうと思ひます。夫に愛があるならば、その爲に死ぬのも意義がありますが、全然愛のない夫の爲に死なせるのは忍びない事です。さりとて、假令結婚後幾多の缺點は見出したにもせよ、此方から離縁を取らうといふのは、道德的に與へてよい事だとは思はれません。如何に處決したが然るべきでせうか御判斷をお願ひいたします。(東京の姉)

(答)

男は根が惡黨ではないかも知れないが輕薄な、締りのない、修養の至らない、短氣者のやうです。貴女の心配なさるやうに、妹さんは、まさか死んで了ふやうな事はないでせうが、本人からどうでも離縁したいといふならば、さうしたらいゝでせう。先方の父が失望して死ぬといつてゐる事も、誇張に過ぎないでせう。氣の毒には思つてゐるらしいが、さればとて夫の父の失望のために一生を犠牲にするといふほど、未來ある若い生命を安價に考へる必要はありますまい。「假令、結婚後幾多の缺點は見出したにもせよ、此方から離縁を取らうといふのは道德的に與へてよい事だとは思はれない」と貴女はいふが、道德的とはどういふ意味でせう。缺點を見出し、愛し得ない夫に仕へてゐるのが道德でせうか、道德はそんな外形上の事ではないと思ひます今になつて道德を持出すのは少し蟲がよ過ぎます。初めから道德的にと考へてやつたのならですが、無自覺に輕卒にしてしまつておいて、あとで後悔するやうな結果に立至つてから、道德をもち出して行くなんていふ事は似合はないではありませんか。貴女のいふ道德は形式的に考へたものに違ひないが、なるほどそれは

不道德でせう。しかしそれよりも、もつと根本的な不道德は何だかお氣づきでせうか。自ら傷き他に累を及ぼす結果をなしたもとは何でしたらうか。それは輕卒な結婚にあるではありませんか。自己の意識の加はらない行爲は法律の對象とはならないといふが、自己意識の加はらない結婚は私にいはすれば、道德の對象とはならないといひます。かういふ意味では、今日大多數の日本の婦人は道德的結婚をしてゐないと思ひます。

現在の社會の如き男女交際の機關も機會も不完全な日本では、媒妁といふ結婚形式を全然取り去る事は出來ないかも知れません。しかし如何に親が薦めたにもせよ、本人が、命維れ從ふといふ如き態度を女らしいと考へるやうな事からはもう覺めていゝではありませんか。も少し發動的にならうぢやありませんか。記者のいつた意味で道德的にならうぢやありませんか。自己が全責任を負ふ結婚をした上で、神ならぬ人間の間の事故、前の觀察の誤りを發見する事がありませう。其爲に悲劇的の行爲を餘儀なくせねばならぬ場合もありませう。かういふ時には勿論當然負ふべき責任は回避してはなりません。もとより道德的に生きてゐる人には回避といふ事はしないものですが。

そこでこちらから離緣をとるのが不道德のやうに思はれるといふのは自己の責任を負はずにおかうといふ時に於てのみいはれる事です。どうしても夫婦關係が持續出來ない事が分つた以上は解散の外に道がないではありませんか。たゞ此解散にあたつて、その關係者がいかにその責任を分ち負ふべきかゞ問題です。そして責任を分つとは、責任を生ずるといふ意味です。もし眞に責任を生じたならば必らずやそれ相應の人道的解決をつけるに相違ありません。こゝには、センチメンタルな同情などを持ち出す餘地はありません。つまり妹さんの場合では、この結婚狀態は双方のために幸福の生活を齎すものでないからといふ事をよく先方に說いて、解決するまでゞす。その態度に誠意があれば、いかに無理解な人でも納得させる力も方法もあるものです。最も正しいと信ずる道を、正面からぶつかつて行く事を、第一義的態度といふならば、第一義的態度に立歸つた時には、世間への氣兼や虚榮やまたは安つぽい涙などは交へる餘地がない筈です。第一義的態度に歸つた時にのみ、或は邪道に歩める人の心を一轉させ得る可能性をもつてゐるものです　かくして輕卒な夫を改心させ得たならばそれこそ大儲けをした事になります。妹さんに薦め母に含めて決行して御覽なさい。誤れる結婚の償ひとしてはその外に殘つてゐません。

約婚を破棄されて（問）

私は實家を離れて、或高等女學校の教員をしてゐるものですが、一海軍將校と知り合ひになり、久しく手紙の交際を續けてゐる間に相愛の仲となりました。私はその士官より結婚を申込まれたので兩親に打明けた處が、親は快く承知し、士官も親の承諾を得、玆に婚約が成立しましたが式を擧げる相談は未だ出來ませんでした。士官はこの冬休みに、わざわざ私の下宿に來て、もう二人は公然夫婦になれたのだからと申して歸らず、其儘私と同棲し樂しい幾日かを過しました。此事も私の兩親は知つてゐます。所がこの事あつて靑年の實家より、親類會議の結果緣談取消を願ふといふ書面がまゐりました。士官は何度か反對の手紙を出しましたが實家では許しません。餘儀なく二人は法律上の自由結婚の期日まで待つことにしました。然るに近頃になり彼は友人を賴んで二人の關係を斷ちたいと申込んできました。同棲までした深い戀仲です。此儘別れゝばよい樣なものの其汚名は永劫に無くなりますまい。でなくても私には別れることはどうしても出來ません。法律上結婚請求が出來ませうか。又彼は軍職に吾は教職にある身、今迄の二人の祕密關係が知れたら罰せられますで

せうか。（横須賀M子）

（答）

貴女の訴へを讀んで私は、戀愛の場合に於て、いつも女性は男性を救へ、淨化する地位に立つといふ意味の事を、カアペンタアか誰かがいつたのをふと思ひ出しました。稍もすれば理性の缺けてゐるといふ嫌ひはありますが、一元的であるといふ點では、私も亦一般的に女性の戀の方が男性よりも生一本であり純眞であるやうにさへ思つてゐます。しかしこれは例外もいくらもあり、或は反對の意見をさへ持つてゐる人があるかも知れませんが、少くも貴方の場合では他人事ならず男性を憎みたくなります。眞の自己を待つてゐるといふ事が、理性を待つてゐる事であるならば、この場合はその男に理性は存在しないのです。もし理性をもつてゐるといふならば、極めて利己的な便宜主義的な、功利的な性格者のそれです。否否この男には初めから自己を持つてゐません。自己に忠實に生きるか、然らずんば死かといふ底の、近代思想の洗禮などは、ちつともうけてはゐません。もともと一介の軍人ですもの、あの偏狹な軍事教育をうけてゐる男子などに、そんな事を期待するのは初めから無理でせう。さればこそ婚約して同棲して後、男は親族會議から色々の理由を添へ、（恐らく他に候補者でもあつたものと思はれる）縁談を取消すやうにいつて來ると、もう自分の存在が、ぐらつき出してしまつたのです、その時法律上自由結婚の期日まで待つと二人は約したといひますがその約束は男の方では心からしたものとは思はれません。さうでなかつたら、ごうして自ら友人を以て關係を斷たうなどと、そんなに早く申込んで來たりしませうか。貴女にもし其の眼があつたらば、（私は眞の理性を眞の眼といひたいものです）その男の心を見拔いたでせうに、惜しいかな貴女もまた、今日の反個性的な教育を受けて來たため、眞の理性即ち眞の自己を確かに握つてはゐられませんでした。さればこそ「この儘別るればよいやうなものの、その汚名は永劫に無くなりますまい。」などと、未練とも諦めともつかぬ煮え切らぬ自己の姿を露はさねばならないのでした。未練なら他人から見て女々しいと思はるるまで徹底してゐたらまだいい、諦めなら竹を割つた樣に出れたらいい、憎むなら青山も枯れよと憎むがいい、ただ中途半端にゐるといふ事は、誠に醜い感じを起させます。これが日本の女性の長い間の第二の性となつた一般的弱點といふならば、止むを得ないとはいひながら、私は日本の婦人を一人なりとも、一日も早くこんな状態から救ひ出されればならないと思ふ一人です。

私は今一般的の論をなして、貴女に無同情であつたやうに思ひます。けれども無下に貴女の立場を否定しようといふのではありません。法律上の結婚請求が出來るか出來ぬかを思つたり、軍職にある男の名譽を思ふといふやうな、切ないともしをらしいともいふ心持にも同情さへします。或形式の約婚ならば之を理由なく破つた場合に法律上損害賠償の請求が出來る筈ですが、しかし結婚の請求が出來るなどいふ事をきゝません。よしそんな事が出來ても男の心が蹈るものと思はれますか。そんな事よりも、今こそ貴女は自己に目醒むべき大事な時なのを悟るべきです。男の破約と意氣地なさに激怒するもいい、そんな男に未練など殘すものかと唾棄する心持にならるるもいい、或はどうしても思ひきれぬといふならばその切なる心持を胸の奥深く抱いて寂しくも清く生きらるるもいい、要するにその男性を如何に見るかといふ態度を、決定さるる事が第一の問題ではないでせうか。すべての問題の鍵がそこにある事を貴女はお氣づきになりませんか。

波紋（感想）

らいてう

三、武力偏重の思想を排す

私はこの一週間ほど協會の資金をつくるための必要から、自分達のグループとは可成りかけ離れた思想や氣分の中に生活してゐる幾人かに接觸し是等の人達から雜多な婦人論や婦人觀の斷片を聽かされてゐたが、その中の一つに次のやうなのがありました。

「どうも今の女は弱くて困る。昔の女は確に強いところがあつた、偉かつた。彼女には薙刀の心得があつた。彼女はいつも懷劍を離さずに持つてゐた。だから彼女には自分で自分の身を守つて行く丈の力があつた。ところが今の女にはそれがない。十人が十人男の腕力や誘惑に負けて仕舞ふ。だから法律の力などを藉りて自分を守つて貰はうの、法律の上で權利を與へて貰はうのと許り考へようとするのだ。併し道德や法律が何の役に立ちますか。殊に日本の法律や道德は婦人の利益など考へてやしません。そんな賴みにならないものをアテにしたつて駄目です何でも強くなることです。何處から、何時どんな敵が現れても自分で自分の身を安全に守る事が出來るだけの體力をまづ養つてかからないことには、なんぼ理屈を言つてみたところではじまりません。」

人類が世界の平和を希ひ、且ついかにしてその平和を得られるかに就いて思想家達が考究しはじめた今日——一九二一年といふこの時代に於て、ともかくも文明國といはれてゐる日本の、しかも、その最も進歩してゐる筈の首府の眞中で年寄でも人の口から、こんな過去の野蠻時代の遺物である

やうな腕力（武力）全能の封建思想を非常な熱心さと眞面目さをもつて聽かされやうとは、誰れだつてあまりの意外さに一應は呆れ返らずにはゐられないでせう。

併し飜つて考へた時、私はこの馬鹿々々しいと思つた思想が案外有力なものとしてなほ日本の一部の社會に殘存してあることに思ひ及ばずにはゐられませんでした。

成程この場合の如くそれが個人の上に就いて言はれたとき人は皆その馬鹿々々しさを笑ふでせう併し若しそれが國と國とのことに就いて言はれた場合はどうでせうか。所謂軍閥はもとより、日本の爲政者の多くは常に國防々々と稱して他の何ものよりも軍備を過重し、これを先にしてゐるのはどういふ考へに基いてゐるのでせうか。かの尾崎行雄氏の軍備制限の決議案を誠意ある討議も經ずして極めて手輕に即決否決として葬り去つた日本議會は、さうして總歳出の三割二分を軍備費に投ずべく敎育、産業其他あらゆる方面の經費に不法な節減を敢てした豫算を通過せしめた日本の議會は一體何を意味してゐるのでせう。世界の平和を目的とし、軍備の制限をその規約の一つとする國際聯盟の締結者として他方に於ては軍備制限に反對し、暗に假想敵國を眼前に描いては頻りに軍備の擴張を急ぐといふやうな矛盾した、且つ背任的な國策をとるのは何故でせう。

我が國が——否我が國の所謂爲政者達が、今日なほその心の底に於て國家生活に於ては戰爭は止むを得ないものである、國を守るものは武力あるのみ、武力こそ最後の決定者であるといふところの信仰を容易に捨て得ないでゐることを、從つて國際聯盟の目的乃至は理想と、その實際上の成果とを頭から馬鹿にしてゐたし、あまりに疑ひ過ぎてゐたりするのを悲しまずにはゐられません。

たとへ何と言つても、一千何萬といふ多大の生命を犧牲にし、それらの人達の母を、妻を、子を生涯癒すことの出來ない悲嘆に陷れたあの世界大戰の唯一の賜は國際聯盟の成立であると私は信じます。

成程かうして各國民が戰禍に懲り、どうにかし

て世界の平和を將來せしめたいといふ願ひから生れたこの國際聯盟も、その出生を喜ぶ私共の心に時として各國の國家的利己心が暗い影を投げかけるやうなことのあつたのは不幸にして事實でありました。

併し私共はそれかだらといつてこの聯盟の成果を疑ひ、それに對する期待と信頼とを捨てゝ、頭から役に立たぬものとして無視し、否定し去つていゝものでせうか。否、寧ろ反對にこれを脅かす者が多ければ多いだけ、一層の深い注意をもつて大戰が產んだこの貴い子供を守り育てゝ行くこそ締約國の一つたる我が國の當然の義務であり、同時に人類を愛し、人類の進化を信じ、その平和を希ふ者の總がゝりで努力せねばならぬことではないでせうか。

實際國際聯盟成立の効果を收め得るや否や、その成績如何は偏に今後の人類の――わけても締約諸國民の覺悟一つにかゝつてゐると私は思ひます

かう考へて來る時、私は一千何萬の世界の母がその愛の結晶であり、目的物であつた彼女の子供を失ふことによつて人類に授けられた唯一人の子供の養育を男子の手にのみ委ねて置くことの不安と危險とを思はずにはゐられません。

生命の尊重者であり、平和の熱愛者である婦人は國際聯盟の健全なる成長發達の上に、世界平和の完成の上にも亦婦人として社會的使命であることを感じて居ります。

私は以上のやうな立場から我が社會の一部に可成り有力なものとして今日なほ殘存する武力偏重の一切の思想を排斥します。（一九二一、五、二九）

▲下澁谷の飯田銀子女史から「市川房枝女史に呈する書」と題し、熱烈なる激勵の一文を寄せられましたことを深く謝します。わたくしは女史の如き眞面目な方が讀者にをられることを心强く思ひます。本文を掲載すべきですけど、公表を憚らねばならない箇所もままありますので、さしひかへます。どうぞあしからず思召し下さいませ。

緑の窓より

鈴木紅美

私は近頃よくこんな事を感じます。「私は今まで誰一人にも眞實を語つて來なかつた」と。さう思ふときほど寂しいことはありません。自分で眞實と思つてなした行爲も、自己欺瞞や、虚榮や、强がりの分子が多分に混じてゐた事を知り、自分といふものを振り返るのが恐しいことがあります。今日までに多くの人に送つて來た手紙を皆とり返したいなんて思つたりします。私は一體いつになつたら眞實を語られるやうになるかと思ひます。そんな日が本當に來るかしらんと思つたりします。そして「お前がいつも眞實を語りたいならばもつと忠實に、お前自身にとつての眞實が何であるかを考へる必要がある」と、いふ聲を聞くのです。

どんなに强がりやでも、孤獨に堪へるといふ人でも、冷酷な人でも、何らかの意味で愛し愛さるゝものなしには生きてゐれないものだと思ひます。生きてゐる限りの人は、少くもさういふ願ひを本能的に持つてゐるんだとさへ思ひます。けれども愛するといふのはどうする事かといはれると、私には分らなくなるんです。無知な母が無我的にその子を抱擁する心持ち、または友人や、愛人や夫を戀ひ慕ふ心持ち、さては小鳥や草花をいとしむ心持ち、それらは各愛といふ語に相當するとは思ひます。けれども無知な母の盲目的な愛の行爲は時としてその子を曲げて育てることがあります。また友人や愛人や夫を熱愛してゐることが、却つてその人たちを惡い生活に陷いれることのあるのを見ます。そして、愛するといふ事にも叡知が加はらねばならないのでないかと思ひます。本當に

愛するといふ事はその物本來の道を進ませるやうに助力することであるとするならば、愛するといふことほど、盲目的であつてならないものは外にないとさへ思ひます。それでゐて、愛の貴い形はやつぱり盲目的な無我愛でなければならぬといふのは、どう解していゝのでせうか。こゝでも「お前が眞に人を愛するためには、もつともつと人間性を深く知らねばならないのだ」と、思ひます。

寂しいから動く人があり、人の中へはいつて行く人があり、また自分を痲痺させる者があります。自ら知らずにか、知つてゐて强ひてか、眠るもの自ら嘲るもの、時としてすねるものがあります。苦蟲を嚙み潰した顔をしてゐるもの、齒をかみしめて默つて平氣をよそほつてゐるもの、周圍のものに當りちらすもの、また時として、ゲラゲラ意味もなく笑つてゐるものがあります。

或人は愛することは憎むことであるといひます。いや征服することだといひます。さういつちやいけない、一切を奪ふことだといひます。そんな馬鹿なことはない、自己を無にして與へることだといひます。さうかと思ふと、愛するといふ事は信ずること以外に意味がないのだといふものがあります。けれども私はタゴールの「愛はそれ自身が答である」といつた語を一番意味のあるやうにも思ひます。「すべてを否定した上に立つた肯定、それが愛だ」と、自分でも分らないやうな事を得意でいつた事があるのを、ふと思ひ出しました。

一方では誰にも何もいひたくない心持と、他方では誰とでも手をとつて腹にありたけ話したい心持とをもつていつもどつちつかずの生活をしてゐるのが私です。

私ほど小さい喜びに吾を忘れて、胸をどらしてにこにこして、氣を浮かすものはなかつたし私ほど小さい悲しみに、くよくよして、打ち沈んで太息づくものもなかつたのに――今は一切が無意味に見えてなりません。たゞ昔ながらに失はないのは

人のした針の先ほどの過失にもいらだつて、顔をしかめて咎め立てずにおけない氣分と、人のしたどんな事にも無關心無干渉で笑つて許して行く心持だけです。

兄が死んだ時には、思ひきり一晩泣けたのに最近母の死に逢つても、どうしても涙が出ませんでした。急電に接して歸鄕した時は、もう母は目をおとしてゐました。苦悶の少い、生前と大して痩せたとも思へない死顔を、私はぢつと見てゐました。私は無意識的に線香をかへました。外では蛙がしきりに鳴いてゐます。隣りのお婆さんが來て「耳の側で呼んで御覧なさい、親味の人が呼ぶと鼻血が出るといふ事ですから」といひました。私は默つて手をくんでうつむいてゐました。その時は、生前の母の思ひ出が浮ぶでもありません。また死といふ嚴肅な事實を考へるといふでもありませんでした。あの時の心持は自分には今分りません。今になつては、やつぱりあの時ばかりは、肩を震はせて、涙に浴することが出來ればよかつたと思ひます。

最近電車で舊師に行き合ひました。その人は作家として立つてゐる人でした。生活のために創作する暇のない事を話されました。「けれどもペンを執つてゐるものは何といつても樂ですよ、文士たちが箱根だとか鹽原だとかへ行つて呑氣にしてゐるのを見ると、何だか反感を催します。自分の生活は自分で働いて得なければ虚言だといふやうに感じてなりません

こんな話をきゝながら、私の悲しく思つたのは、なぜもつとこの先生の顔をも正面からぢつと見つめる事ができなくなつたのかと、いふ事でした。

海内婦人界

婦人平和協會の創立　羽仁もと子、井上秀子、尾崎英子、塚本はま子、日賀田男爵夫人外五十餘名の婦人の發起にて、五月三日神田一つ橋如水館にて婦人平和協會創立總會を開き規則を議定し國際通信社長ケネデー氏及び澁澤子爵の演説等あつた、來會者二百餘名、規則の要領左の如し

▲本會は婦人平和協會と稱し内外婦人を以て組織す▲本會は内には國内に於ける婦人の地位の向上に努め外には國際的友情の向上永久平和の確立に努力し以て一國の文化と世界人類幸福の增進に資するを目的とす▲事業としては平和の確立及び婦人の地位向上に必要なる運動、研究會、出版、公開講演其他▲入會者は會員二名以上の紹介を要す▲會員の會費は年に三圓。

愛國婦人會總會　愛國婦人會にては五月七日日比谷公園にて第廿回通常總會を開いた皇后陛下の行啓あり、其前日六日午後には偕行社にて功勞者七百餘名に總裁妃殿下より有功章を親授せられた。

日鮮女學生の文通　今度日鮮親善の目的にて朝鮮の女學生の内地女學生と文通し度しとの切なる希望により朝鮮總督は囑託石川義一氏の提案に依り讀賣新聞社にては、左の約束により文通の仲介をすることゝなつた。

文通の約束

(一) 希望者は現に女學校在學生徒であること。

(二) 希望者は學校名、學級、年齡、姓名を本社婦人部宛に通知されたい

(三) 本社は内鮮各別の希望者名簿を作製し、學級年齡の似合はしい人三名を選定して双方へ通知をする。

(四) 希望申込の際　返信用の切手を封入されたい。

婦人海外練習生歡迎　農商務省の海外練習生は目下歐米、支那、南洋、合せて八十餘名に達してゐるが、本年は手當も八割の增加となり、三十名を募集することゝなつた、尙婦人に適する仕事も澤山あるが志願者の少なきを遺憾とし、大いに婦人志願者を勸誘してゐる由、締切は八月廿五日。

木内輝子氏の渡英　女流彫刻家木内輝子氏は昨年農商務省海外練習生に及第し愈々六月裝身具研究の目的で渡英することゝなつた。

帝大工科の婦人聽講生　今年日本女子大學を卒業した西山ふみえ氏は今回東京帝大工學部の第一回聽講生となり主に建築學史を研究することゝなつた。

死兒分娩の激增　東京市衞生課の調査によれば、今年一月より市内各區共死兒分娩が增加の傾向で、一月三一五名、二月三六二名、三月四五六名の多きに達した。其主なる原因は生活難から婦人の内職に過激の勞働を強ひられる爲だといふ

婦人野球團の組織　女學校で野球を行ひつゝあつたのは愛媛縣今治高等女學校のみであつたが、今回宮城縣立第二高等女學校高等科に依つて婦人野球團は組織された。

婦人事務員協會生る　石井貞子、寺平美哉子、靑木落葉その他諸氏の發起にかゝる婦人事務員協會は五月八日神田三崎町の日本大學大講堂で發會式を擧げた當日三宅博士、山田わか、嘉悅孝子女史等の講演もあつた尙本會は求職者の紹介をするよし。

海外婦人界

■**北米に於ける婦人の地位**　北米合衆國に於ては三十名の婦人が州會議員に選擧され又アイダホ、カンサス、モンタナ、ノースダコタ及テキサスの各州にては州の教育局監督に選擧せられ同オハイオ州クリーヴランドに於ては婦人が民事裁判所の判事に任ぜられた、猶フランクリン夫人はインディアナ全州の大狀師代理の如き樞要の官職に推擧された。

■**婦人文部大臣候補者立つ**　加奈陀に於ては、ラルフ・スミス夫人を文部大臣候補者に推薦し大いに同地の婦人問題と種族安寧とに勝利を與へた、即ちスミス夫人は世界最初の内閣員である。婦人參政權の賛成者である佛國首相ミルラン氏は同國婦人參政會から、代理委員に推された。

■**佛國婦人の商業的進步**　今回ミューラーは佛蘭西婦人の商業方面に進步の階梯を作る爲め佛國商業會議所の所員又は判事席の判事となり得べき議案を議會に提出したが多分可決されるであらう。

■**英國に於ける婦人官吏**　目下英國に於ては治安判事、地方官等に婦人の多くを採用してゐるが、これ等は又倫敦高等法院の審判官をも兼る場合もあつて是は凡そ婦人參政權附與の結果によるのである

■**英國最初の婦人辯護士**　今回ミス・オリブ・クラフアム女史は辯護士試驗全部を無事通過した。英國に於ける最初の婦人辯護士である。

■**米國最初の婦人將校**　米國に於ては五月初旬バーカ夫人をニューメキシコ州國防軍附陸軍少佐に任命し、軍服着用も軍隊敬禮の特權をも與へたが同夫人は米國最初の婦人將校である。

■**劍橋大學に於ける婦人**　英國劍橋大學は婦人も亦男子と同じく授業料を拂ひ同じ試驗に合格するに非ざれば同人に學位を附與しない事に決定した。

■**米國婦人の政黨組織**　本年二月華盛頓に米國參政婦人大會開會と同時に婦人政黨組織の運動起り、ハーデング氏大統領となるや、運動は増々猛烈を加へ大活躍を開始した。旗頭はアリス・ポール女史で、領袖には參政運動で、數回入獄し饑餓同盟をやつた經育のジョン・ウインタース・フラナン女史あり、熱辯火の如く文章劍の如きニユー、ゼルシーの、ホプキンス女史等もあり。

■**キュリー夫人激賞さる**　米國大統領ハーヂング氏は訪米中のラヂユーム發見者キユーリー夫人に對し去る十九日米國婦人を代表して白堊館に於てラヂユーム一瓦入の壜を贈り夫人を以て現代化學者中第一位を占むる人なりと激賞したり。

■**英國婦人官吏十萬餘**　英國が政府各省に使用する人員に就て發表した所に依れば、二月一日現在總計三十六萬六千七百七人内五萬九千四百人は女子である又臨時吏員は十一萬二百五十一人にて内女子は四萬九千三百九十六人なれば、合計婦人勤務者は十萬八千八百七人なり。

のぞみ

――(某夫人の十五歳の春)――

生田花世

空の綺麗に青々した四月一日の朝のことでありました。今日からはいよ〳〵學年始めで席順などもきまり、教室もかはるので、二人の弟はいづれも樂しげに連れ立つて、村の小さな小學校へと出かけて行きました。私も弟達と一緒に、母の心づくしの温かい朝の食事をすましてから、學校へ行かうとしたのですが、いつもさそつてくれる一つ年下の叔母――と云つても十四ですが――の加矢子が、まだたづねて來ませんので、南向の障子を開いて、そこから、ずつと、廣々した野の方を見やつたのでした。一すぢの村の路、その左右の松林、松林の中に火葬場(やきば)の煙突、それからずつと向うへ、段々に低まつて行つて、多くの村落や、小川や、堤防や、木立などのすべてが、青色や、黒藍色の斑點となつて見える野の方へ、そして、その野の一端の大きい川へ、その川の彼方の山脈の方へ、私の眼は蝶々のとんでゆくやうに飛んで行くのでしたが、ふと、さういふ青いものゝ中に、靡いてゐる白いものに注意を呼びとめられました。その靡いてゐる白いものは徐々に他の方へ、他の方へとかつ消え、かつ現れて走つてゐるのです。ぢつとその白いものゝ走つてゆくのを見てゐるうちに、私の心の中には、晴れやかなある強い音樂のやうなものが感じられ始めたのです。それが、單に喜悅であるといつてしまふには、あまりに新鮮な、別種の昂奮の情でありました。

「姉さん、何を見てるの」

かういつて、まだ小さな妹が、そばに來てたづねたので、私は
『汽車が見えるから、そら、あの走つてゆく白い煙が見えるから』
とうつとりとしてまたも見送つてゆくのでしたが、庭先の柿の樹の一番はしの枝が、丁度交叉してゐるあたりに、遠方の山脈は、まるく屈つて、そのまはりに、灰白色の一廓が數本の煙突を目じるしにして擴がつてゐます。それが、この土地での都になつてゐるT――市なのです。

T――市は今年から、新設される高等女學校に、入學生が募集されてゐて、
『和代がもし今度首席を占めたら、一つ女學校へ入れてやらう』と、父親からふつと戯れのやうに云はれた言葉を、眞實、それと思ひこんで、一生懸命に勉強して、私はたうとう首席で進級したのでしたが
『困つた事になつたもんだ、どうしても女學校へ入れなければならぬかな』
と貧乏で、借金に苦しみながらも、子供達には少しもそんなそぶりを見せもしない父が申した時には
『約束は守らなければいけません。父さんはあんなに固く約束なすつたのだから』
と少しの讓歩もしなかつたのです。
『では、父さんも男だから約束は守る。女學校へ入れてやる事にしよう、だが、そのために、父さんに誓言をしないといけない』
かういふ事になつて、私は昨日、美濃紙にその誓言、三ヶ條を書いて、父と母とに、一通づつ渡したのでした。

一、熱心に勉強します
一、お金づかひを注意します
一、不品行致しません

白い煙は、もう、とつくに見えなくなつてゐますのに、私は、嬉しさうに、やはり同じ眼附で、野の

方を見てゐたのです。すると、門路の方から
『和代さん、學校へおいでんで……』
と呼びながら、歩いて來る、一つ年下の叔母の磯子の姿が見えはじめました。私は、母に、聲をのこして、喜んでとび出しました。さうして磯子のところへ行くと、その手をたたいて、云ひました。
『私は、たうとう女學校へ行くのよ』
『女學校へ』
かう問ひ返した磯子の無感激な表情が私には寂しかつたのでした。
今一人の友達、常野といふ雜貨店の家の女の兒をさそつて、三人一緒につれ立つて、隣の村にある高等小學校へと、半里ほどの通學なのですが、途中に、谿川があつて、そこを渡ると――水といつては一滴もないのです――堤防の林のすぐとつゞきに、白壁、長屋門の倉が、前後左右に、四つもある大きい農家の前へと出て行きます。
こんなにして、三人連れで、通學するのももう僅かだと思ふ考へが、どんなに、私には樂しいでしたらう、それは、樂しみといふ樂しみの中の一番、卒直な、又、一番單純なものであつたのです。これまで、時々常野と磯子とが妙に仲よくなつて、私を、仲間はづれにして、先に歸つたり、いろ〳〵と虐められるやうな目にもあつたのですが、そんな心持からではない、もつと幸福な生命の飛躍といつてよいやうなものから私は、ほんとに嬉しがつたのです。さうして私の心持は、あだかも、さつき見た汽車の白い煙のやうに、走るのです。つ、つ、つ、と輕快な速力で、走らうとするやうなのです。
前の方を二人の男の兒が歩いて行きます。その左の方の男の兒は、私が、何くれとなく懷しい感じのする、その大きい農家の二番目の男の兒で（兄の方は、T――市の中學の三年生で）この男の兒も、今年か來年かは、やはりT――市に出るとの事で、ああ、それは、私にとつて、とりわけ嬉しい事なので

した。

受持の先生は、私が、女學校へ、いよいよまゐりますといふのを聞いて、ほんとに喜んで、ではこれから、毎日一時間づつ私が、算術、其他、復習してあげますといつて、親切に、笑顔で、ほかの生徒にも

と訊きましたが、皆、默つて居り、たゞ私ひとりが、皆から見つめられてゐるのを感じました。私一人が先生の寵兒でゞもあるやう。

『誰か外にはもうありませんか』

四月十二日には、「春の遠足」だといつて、全校の生徒が、先生に連れられて、聖天山へ登りました。いつも遠くに眺めてゐたその山の麓へ行くと、街道近くには、立派な石の鳥居が立つてゐて、そのあたり一帶の草原は、目覺めるやうな綠の色――それもしつとりと潤ひのある豐かな綠の色に輝いて居りました。鳥居のところで、生徒達は自由行動をゆるされたので、わい、わい、叫びながら、その草の上を走りまはつたり、轉がり廻つたりしました。上級の女生徒達は、みんな、さも行儀のよい娘のやうにつれ立つて、輕い足どりで、登山する山道へとさしかゝりました。

『入學試驗なんぞ、譯はありませんわ。私はきつといゝ成績で、合格して見せますよ』

私は一番の親友である菊枝といふ女の兒にかう云ひました。

『ほんとにさうして頂戴ね、私も祈つて居ますわ』

とその友達はかう云つて、強く私の手をにぎりしめました。色の白い、丸顔の、さうして大きい鼻と小さな口の持主であるこの友達は、私と性分の合つた仲よしで、どちらかといふと、私がその愛を受けてゐるといつてよいのでした。誇りをはつきりと感じた心持でふりかへつた時、少し後の方から四人つれ立つて來る二人の同級生と、視線があひました。その一人は、私が今年にかぎつて、首席となつたた

めに、小學校時代から獨占してゐた地位から落ちて、沈みこんでゐる女生徒で、もう一人は、あの立派な男の兒に手紙を書いて、その机の中に入れたとかいふ噂から、いつも壁書きされてゐる、すらりと嬌態のある身體つきの娘でした。私は、誇りを感じてやみませんでした。別に、深い心持からではないのです。かうして、新しい希望を胸に抱きながら、小さなところから、大きいところへ出てゆくといふ喜びは、これまでに經驗のない心持でした。私は云つて見ようもない氣持で、ずつと上方の松林の中に立つてゐる彼の男の兒を、なつかしく見つゞけつゝ登りました。

四月十五日に、今日はいよ／＼Ｔ――市へ行くのだと云つて、私を連れて行つてくれる父は、晴着にきかへました。父の姿は立派になつて、こんな父に連れられて行くのが誇りに感じられました。云ふまでもなく、私も晴着を着て、ずゐぶん派手な赤い襦子の帶をしめました。黎明から働いてくれた母の心づくしは何でしたらう。美しい色をした赤飯が、父と、私との茶碗に盛られたのです。

『それでは行つてまゐります』と家内一同に挨拶してから、風呂敷包と、旅行鞄とを、振振り分けにかついだ父につれられて、私は見返り見返り家を離れたのです。村はづれの、「飛び渡り」といふ石橋のところで、小學校の先生にであひました。

『やア』

とその先生は申しました。

『先生には、どこへ、Ｔ――市へですか』

とその先生は、父から昔、學問を教はつたのをおぼえてゐて、今もやはり先生と云つてゐるのでした

『それは結構ですな。それでは和代さん、成功して歸つて下さい。祈つてゐますよ。』

から微笑しつゝ言つて、向うの方の道へと別れて行きました。

高瀬村の長い、大堤防の上にあがつて、振返つた時には、起伏する山脈の一點に、その禿げた形が、

Ｃ字形をしてゐるので、はつきりと目じるしになる山の下に、垂れ下るやうな傾斜した麓の村が、掌位に見えるのです。今ごろ、母や祖母や、弟妹が、あの旨い赤飯を食べながらどんな話をして居りませう。

『父さん、私はほんとに嬉しい』

と私は大川の廣い河原へ下りてゆく廣い道のところで申しました。

『さうだらう。だが、入學試驗に落第したら駄目だから、喜ぶのは早い』

と父は荷物の肩をかへながら申しました。

『大丈夫、私はよく出來るのよ。落第なんかしますものか。落第すると、留子さん（首席を失つた同級生）に嘲はれますから。それにもうあの學校へは行かれないから』

『そんな事もなからうが、そのつもりで試驗を受けるといゝ』

と父は申しました。

白い礫の渚には、愛らしい川魚が、およぎまはつてゐました。その幅半丁間の水の上には、白い帆を上げた舟が、見渡すところ三艘上流と下流とにその姿を見せてゐるのです。

渡舟にのると、櫂の音が、樂しく起りました。のぞいてゐると水底は、やがてかくれて、青黑い、しかも清らかな水の一束ね、一束ねが、爭ふやうに、上になり下になりしてからみ合つて落ちて行くのです。それは靜かに見えてゐて、こゝろみに、白いハンカチフをその上に浸すと、すさまじい接觸が起るのが、その急流であることを感じさせました。

『落ちるよ。落ちるよ』

と父は私の袖をひかへました。私は色の淺黑い、八字ひげのはえた、鼻の高い、私の母が自分には過ぎてゐると云つた事のある品のいゝ父の眼に、一杯の父の慈愛を感じました。有難い氣持がして、涙ぐんで、私は、ハンカチフをかたくしぼつて、自分の眼の上にあてました。

舟を下りてから、古風な燈明臺の立つてゐる大堤防を向うへ下りました。すると、車夫がこちらの方へにこ〳〵しながら歩いて來ました。それは、父とは知り合ひと見えて、父が何ともいはないうちから
『お孃さんですか、T――市へ、ぢやあ、初吉の車をよびませう』と云つて向うの農家の方へ行きました。年の若い車夫が、新しい車をひいて來ました。その車全體が、黑くつや〳〵と光つてゐて、段々には、私にとつてはこれまで見た事もない、紅い毛の深々と盛り上つた布が、ひろがつてゐました。丁度何かの花瓣を澤山むしつてこしらへたやうに、その美しい深々しい毛は光つてゐました。
『いゝ車だな』と父は云つて、私に
『その車にお乘り』と申しました。私は下駄をぬいで、白足袋であがりました。さうして下駄を手ににぎつて、その置き場所に迷ひました。ふつと氣のついた、車夫は笑ひ出して
『いや、お孃さん、下駄ははいてゐてよいのですぜ』
『お前、下駄をぬいでるのか』
父と車夫との間には、愉快さうな笑ひが起りました。年上の車夫も笑ひました。
『親切なお孃さんですね』
私は勿論、はづかしさに眞赤になつてゐました。「人力車に乘る」などゝいふ事は、小さい時一二度あつた位です。乘つてる人は見てゐるのですが、これまでうつかりしてゐたので、悲しい事には、新しい毛の敷布の美觀に打たれての事でした。
二つの側は、藍畑や、菜の花畑、麥畑の中を、燕のやうにはやく走つて行くのです。後から來る父とその車夫の話聲が、春風の間にゆるくつゞいてゐました。停車場の木柵が見えだし、丁度、兩腕のやうに、一つを上で、一つを下げてゐる目じるしの標柱が、遠くから見える頃
『あゝ、丁度いゝ、今汽車は下の方に行つてゐるやうだ』

と私の車夫が申しました。停車場には、もう澤山の人が集つてゐました。俥から下りて待合室に入つて行くと、もう切符を賣つてゐましたので、父は「上り二枚」といつて、T――市への乘車券を買ひ、こちらへ來る時に、そこで立つてゐる五十恰好の婆さんと、その伴と見える四十恰好の婆さんとを見ると、急に、その顏色を、別なものとして、帽子をとりながら

「これは山岡の大奥さん、どちらへ」と大變慇懃に申しました。さうして、大抵の人には父がそんな事をしないやうな屈み腰をしてゐるのです。婆さん達は、父とは反對に、至つて無頓着でした。

「あゝ、これは、これは」

と年上の立派な着物を着た婆さんは、低い聲で申しました。何といふ厭な聲でしたか！

「西村さんですか、私達はこれから上方見物に行かう思ひましてな」

「それは結構でございますな」

どうして父がそんなに屈んだやうな風にしてさう云つてゐるのだらうと、好奇心をもつて見てゐると父はつか〳〵と私の方へ來て

「和、あの方は、父さんがいつも世話になつてゐる、山岡さんの大奥さんだから、行つてお辭儀をして來るやうに」

厭でしたが、私は、父に云はれるまゝに、その立派の着物を着た婆さんの前に行つて、父に云はれた通り申しました。

「西村さんの娘さんでッか、ふん、市へ行かはるか……」

かう云つたきりお辭儀を戻してもらふ譯には行きませんでした。父も私も變な氣分になつて、默つて腰をかけてゐました。そのうちに汽車の近づいて來る音がしました。

「あゝ、汽車だ、汽車だ、私を乘せてゆく汽車だ」

私は、目の前にブウ、ブウ、大牛が唸るやうに、もつとそれよりも騒がしく音を立てゝ止つてゐる煤けた身體をした長い汽車を、可笑しいやうな面白いやうな氣持で見ました。その中に入つて了つて、線路の上を走つてゆくといふ事が、不思議なのでした。父は、と見ると、あの二つの荷物をかついで、私を眼で、ぢつと見守りつゝ、私の手を引いてゐるのです。私が父の眼球をこの時ほど間近に見た事はありません。

『こちら、こちら』

と父はさつきの婆さん達の乘りこんだ列車に私が行かうとすると、かう云つて、呼んで他のに乘りました。

その列車の中には大分乘つてゐましたが、私達の腰かける位の席はありました。汽車が動き出したといふよりは、停車場のいろんな掲示板や木柵が、動きはじめたのは、私に、愉快な昂奮を感せしめました。窓から外を見ると、農家は動いてゐるし、林は動いてゐるし、遠方の山々も動いてゐるし、何一つ動いてゐない
ものはありません。それは燃えるやうに動いてゐるのです。私はめまひを感じて、屈みこんで、足下の線路を見ると、目をつむりました。すると次の窓から首をさし出してゐる廂髮の娘が話しかけました。

『あなた、女學校のお試驗を受けにいらつしやるのぢやありませんこと』

『さうですわ、あなたは』

『私も。あなたは何年をお受けになりますの』

『私は二年級を受けます』

『私は三年級を受けますのよ。三年級は隨分澤山あるさうですから、落第しさうですけども………』

かう云つてその娘は笑ひました。進行する汽車の震動で、その娘の人の身體は搖れ、その後れ毛が、

あちへ、こちへ吹かれてゐましたが、健康さうな頰には美しい血管の生き生きした活動が仄見えるのです。

誇りが私の心の中には又もやはつきりとして來ました。私も三年級への入學試驗を受けたつて、きつと合格しさうな氣がしました。さうして、こんなに、汽車の窓と窓とで、新しい友達とこんな話をしてゐる事が、どんな事よりも樂しくて、氣がきいてゐて、立派な事のやうに思はれたのです。

時々、煤煙がとんで來て、私達の眼には、黑い粉のやうなものがとびこみました。窓から首をひつこめて、私とその娘とは、こんどは別の話をしました。十日程前T――市へ行つて、もう新設の女學校の美しい校舍を見て來たといつてその樣子をいそ〳〵と話しきかせるので、私の心はをどるやうでした。

『國府、國府』

と汽車が一寸停つた時、驛夫がよびました。

『この次がT――市ですよ。もうすぐです』

かういつてその娘は、この驛で降りて了ひました。その名も云はずに降りて了ひました。

『何を話してゐたのか』と父がたづねました。

『いろんな事をきゝましたの、父さん、私は三年級を受けて見よう』

『どうして』

『今の人は三年級を受けるさうでしたから』

『あの娘はあの娘、お前はお前、そんな競爭はしない方がいゝ』

かう云つて父は優しく私を見やりました。

其後私は、二年の入學試驗に、七番で合格して、女學生となつて登校した日に、あの娘にあひました

『よかつたのね、私もうまくいつたのよ』

とその娘は私に云つて笑つてゐました。その名が、高林春子といふのだとその時いつてくれました。卒業後幾星霜を經た本年度の女學校の同窓會誌で見ると、その高林春子改姓寺島春子の名を見出す事が出來ません。死亡の時のみその名は除かれて了ふのです。

會務部通信

市川女史の外遊を送る

平塚明
佐々木伊都

全國會員諸兄姉に申上げます。

協會の理事市川房枝さんが、この度理事の職を辭されて外遊を思ひ立たれ、目下旅行免状下附に就いて御運動中です。免状もこの一兩日中には多分下附になるだらうと存じます。

協會創立當時からの市川房枝さんの目醒ましい御活動は内部は勿論一般人の等しく認めて居るところで殊に昨夏臨時議會に於ける治警五條改正運動以後は筆紙に盡されぬ程のお忙しさで、そのお疲れが直りきらぬ中またまた對四十三議會運動に於て再び非常な御盡力を頂きました。おかげで該案既に衆議院を通過し國民大多數の輿論となつて近き將來には必ず達成せられるといふことが明らかになりました。

その外協會の機關雜誌女性同盟の編輯についても何から何まで房枝さんのお骨折を仰いでゐたことは諸兄姉のよく承知の事と存じます。

理事や評議員の中には市川さんの過勞を見るに見兼ね、暫く會の事務から遠ざかつてゆつくり靜養して頂きたいといふ希望を持つて居たものも二三人ならず居りまして、れ迄度々その話が出たことであつたのですが市川さんの御意志を翻すに至らないで今日に及びました。

■四月の會計報告

△收入の部

收入總額	八六九、四一円
内譯	
會費	六一六、九四
寄附金	二四一、—
前月繰越高	一一、四七

△支出の部

支出總額	六九七、七五円
内譯	
俸給の一部	一六五、—
事務所費	一二五、七五
辨當代	一七、六五
通信費	一、六五
臨時費	六三、〇〇
電車及俥代	一五、四〇
圖書費	二、五〇
消息費	一二、四〇
出版部への貸金	一四三〇〇
借金の利子及返金	一五一、四〇
△差引殘額	一七一、六六

□會費ノ領收

（四月二十六日より五月卅日までの分）

十五圓（藤山きよ子）三圓（荒山隆）二圓（山家ふみへ）（福岡止子）（松平さと）（島中雄作）（永井しづ）石原修）（名生ゆき）（太田菊）（小口みち子）（高梨禎子）（久保田大忠）（宇井たみ）（金島正子）（榊原彌

若しこれまでの樣な過勞を續けられたら市川さんは近き將來に於て必ず御心身の御健康を害するに違ひはないと思つて幹部のものは安き心もなかつた次第でございました。しかしこの度全く御自發的に會の事務から遠ざかり同時に御見學の爲め米大陸へ遊ばれる事になつたのは、市川さんの爲健康の爲御向上御發展の爲眞に喜ばしいことです。

あれ丈の働き手をここしばらく失はればならなくなつた協會の損失は、まことに大きなものですが、總會も目前にせまつてゐますから、規約變更と共にいろ／＼従前の不備な點も改め、理事の數も多くなることですから、市川さんのこれまでの御苦勞を空しくするやうなことはないと信じます。

とにかく市川さんのこの度の御決心は市川さんにとつては非常に結構な事なのですから、協會はこゝに眞心から喜んでお送り申したいと考へます。それについて協會の誠意を何等か具體的に表現したいと存じ、理事評議員相談の結果全國會員中から應分の據金を集めこれにお餞やらお禮やらの心をこめて市川さんにお贈り申上げることに致しました。従來とても市川さんのお骨折の甚大であつたに對し、協會がこれに酬いたところは殆ど云ふに足らぬ程の事でしたが、會員諸兄姉御熟知の樣な會計狀態で、如何ともすることが出來ませんでした。この際全國會員諸兄姉の御奮發によつて、市川さん従來のお骨折に對して、たとへ存分のことは出來ないにしても、相當の誠意を表すことが出來ましたら、まことに喜ばしい事と存じます。御贊成の方は金額の多少を論じませんから協會本部會務部宛、振替若くは爲替を以て早速にも御送附の程願ひ上げます。市川さんの御外遊は多分九月初め頃と存じますが、協會としてはなるべくはやく差上たいと存じてをります。

右謹んでお願申上ます。

（山田美都）

生）（厨川蝶子）（柴田かよ）（岡田幸子）（永井柳太郎）（大山柳子）（巽しげ）（三輪田元道）（中西文）（增田義一）（秋田雨雀）（金尾夏子）（黒澤たま）（羽仁もと）（荒木いく）（樋口みどり）（寺田松枝）（岩淵百合子）（和田辰子）（猿渡千枝子）（岡田八千代）（宮方福）（帶刀泰子）（室伏高信）（高木トヨ）（山家ふみへ）（安田春子）（上河原ノブ）（山崎今朝彌）（平塚孝子）（大庭景秋）（鎌田榮吉）（川口邦子）（布施光子）三圓（河崎なつ）（遠山操）五圓（後藤カオル）（野澤つゆ）二圓四十錢（山田とう）一圓（百瀬しづ）（塚本仲）（司城すな）五十錢（村橋末）一圓（砥上寅子）（竹田一）（瀧本いく）（星野靜香）四圓（沼田ふく）七圓（山田わか）一圓五十錢（三ヶ島よし子）（下川マサオ）六十六錢（大谷信子）五圓（杉美枝）一圓（村瀬末）五圓（後藤カヤル）三圓（野原きん子）一圓五十錢（新谷トメノ）六十六錢（齊藤皐月）（五十錢（片岡昇）（岩橋みち子）一圓（平山元）六十錢（野原きん子）（一圓（伊藤朝）（實田福太郎）（片山仲子）（清水フジ）（石丸喜世子）（原チヨ子）（小檳茂代）（松野すが）（藤澤光子）（相馬貞井）（小林すゞの）（岡本かの子）（市川ふみ子）（尹心德）（西端さかえ）一圓五十錢（河瀨利子）五十錢（松崎フジ）（尼子松代）四圓（宮川靜枝）一圓（北島しづ）五十錢（野村貫）一圓（平山文）（田村滿治）（德永ちゑ）（富田きよ）（森藤藤江）五十錢（爲藤五郎）一圓（五十錢（本背千里）（渡邊よしえ）（寺館幸）

□新入會員

寺館幸子(東京)渡邊とし子(名古屋)近藤敏子(熱田)牛塚きり子(熱田)志谷トメノ(島根)荒木久子(東京)荒川綾子(東京)瀧口シゲ子(東京)

□前月號で報告があつた樣に資金を得るために曲乗飛行機の切符を賣つた事でも隨分と非難がありましたけれども私は思ふ自分の勢力を幾分でも（この場合幾分どころではなかつたのでした）費やしてそこに一つのものを生み出すといふ事は尊いことだと、そんな意味でたゞ寄附を頼みに行くといふのでなしにたとへみんなが非常な無理をしたとはいへどんなに愉快だつたか知れません。そしてその利益金があらかた借りてゐたものの返濟にまはされたとしても。だから批評される人は批評家よりは偉い筈です。少くとも頭のいい惡いはともかくとして何かしただけ取り柄がある筈だから。では報告にうつりませう。私達は前にお知らせしてあつた觀劇會のことに取りかゝりました歌舞伎座と明治座にきめて運動期間を十日と見て協會一同で大車輪で殴りましたその上今度は會員の皆様にもそれ／＼お送りして御骨折り願つて賣り捌きにつとめました。歩合は歌舞伎座が賣れ高の一割五分明治座が賣れ高の二割七分を協會がもらふ事にいたしました。もつとも今月からどこでも觀覧税が加はつたので歌舞伎等は特に觀覧料も高くて數は多く出ませんでした、この方は特等と一等だけにして明治座の方を特、一、二、三、と切符を刷らせて運動して見ました、その結果は次の樣になります。

▽收入ノ部

歌舞伎座	全賣上高	六八六、九
（内譯）	特等	二六一、九
	一等	四二五、〇
純益金（協會所得の分）		一〇三、三
明治座	全賣上高	二六三〇、三
（内譯）	特等	六四三、八
	一等	八三七、四
	二等	九五〇、四
	三等	一九八、七
純益金（但小物代として五三、八支拂）		六五二、六九
	純益金合計	七五五、九九

▽支出ノ部

總支出		二四五、六六
（内譯）	切符印刷代	六八、—
	辨當代	六三、七五
	自動車代	五六、—
	電車代	二二、五
	通信費	九、九
	祝儀	二五、五

（明治座では祝儀を全部寄附して下さいました）

差引收入金高　五一〇、三三

▽寄附ノ部

金參圓也		石原米子氏
金拾圓也		山脇玄氏
金貳圓九拾錢也		大場かずゑ氏
金五圓也	愛國生命	磯塚氏
金五十圓也		福澤桃介氏
金五十圓也	中央公論	麻田氏
金拾圓也	正金銀行	矢野勘治氏
金五圓也		入田菅江氏
金壹圓也		沖野岩三郎氏
金十圓也		鈴木梅四郎氏
金五圓也		高梨しげる氏
金五圓也	（芝本榎）	平塚孝子氏
金十一圓四十錢也		後藤カオル氏
金二圓九十錢也		竹田一氏
合計金	百七拾壹圓貳拾錢也	

總收入金高　金六百八拾一圓五拾錢也

丁度寄附金も合せて、此度の觀劇會で協會の得た金が支出をすつかり差引いて、六百八十一圓五十三錢になります。これだけの金を得るために私達は全くふなれなためにどんなに多くの心づかひと勢力とを費やした事でせう、そして多くの前前からの準備のたりなかつた事氣づかなかつた大事な事などが後から／＼大きい不便と繁雜さを増して行きました。さうして不用意な事かどんなに他人や自分達

を不快にするかを思つた。殊にかういふものに對するよい多くの經驗をもつたのでした。現に今度の催しに特に左の方々に非常に御骨折りを願ひまして協會の人手の少ないところへどんなに大きい援けでございましたでせう。厚く御禮申上げます。國木田春子、佐藤明治座主任、龜田歌舞伎主任、武井、百瀨、上村、坂本塚本、の諸氏及び多數會員諸氏。遠く舞鶴より祝電二通をいただいた大石芳枝氏に御禮申上げます。

□御わび

この月は初めから觀劇會の事でみんなの頭の中がいつぱいになつてゐて會務の方がすつかりお留守になりましていろんな大切な事が延び〱になつてゐました殊に御手紙に對してゆる〱御返事も出來なかつたり急ぎのものがはたされなかつた事を申譯ない事に思ひます。これから總會によつてそれぞれきまりますと各自の持場々々で落ちついて十分な仕事も出來る事と存じます。それから會員を增す事につとめたいと存じます。現在會員の皆樣も御一人々々に責任をお持ち下さいまして御宣傳下さいます樣、總會によつて契約も改正されますと宣傳の上にも非常に便宜になる事と存じます規約も改正され次第印刷して用意いたしておきますからどし〱御申越し下さいますやう御願ひいたします。（伊部）

支部消息

大阪支部

△廿日午後一時より五月例會を高安やす子夫人方に開く。出席者十八名、同日大原社會問題研究所の高田愼吾氏は「婦人を男子の扶養下より解放する」といふ前向からの問題に關して歐米の事情などの例を引き、結局この問題の解決は經濟問題と密接に關聯し、產兒の公費扶養なる事などを述べられ、引續き日野國明氏は會員の民法に關する質問に種々解答された。因に同氏は治警五條の反對論には秩序立つた理窟の通る議論は一つもなかつたのであるから當分每年提出するがいいと鼓舞して居た。

第一回總會開催

五月中に開く筈の第一回總會が觀劇會や事務所移轉などで非常に取込んでしまひまして心ならずも延引いたしましたがいよいよ左記の如く開催、規約の改正、役員の改選、九年度の會計報告、十年度の豫算、支部及會員より提案等につき御協議いたす事に確定いたしましたから、在京會員諸氏は勿論地方會員の方々も是非御奮發なさつて御出席下さいますやう切望いたします。

時日　六月十二日午後一時半より

會場　中央亭支店（丸ノ内海上ビルディング内）

晩餐會　總會閉會後午後六時より同場にて開會。（會費壹圓五十錢當日御持參の事）

神戸支部

幹事長　石原　艮

△拜啓私、其後病氣やら、又各地へ旅行の爲め、神戸支部事務引渡相後れ居り候處、愈々明二十九日を以て、會員會費拂込明細表調製と共に、平會員と相成申候

△四月七日付第七回會計報告中長野まつ子氏大正九年十一月より大正十年一月までの會費一圓五十錢（内二割引き）は、昨年十一月二十七日會計報告補遺にて御報告、御送金申上候ものに係り、二重に拂込み居るを本日發見仕り候、本年四月七日の報告の下段に記し候注意書は其人名を取消し、會員原千代子の本年四、五六の三ヶ月分へ納入のものとして御取扱被下度候右御手數ながら奉願上候

名古屋支部

幹事　山田とり

拜啓相變らず懸命にお働き頂きます事を

謝します、さて四月當支部幹事の改選期に相當しましたので久方振りに例會を去二十九日午後七時から中央食堂樓上にて開會し會員の意見交換に幹事の改選を行ひ名古屋新聞記者渡邊とし子女史と私とが引次ぐ事になりましたから左樣御承知下さい、今後は私より（五月より）當支部に關する報告は致す事になりましたから――

渡邊女史の外に新入正會員二名を得ました喜びをお知らせ致します、それは牛塚きり子（熱田新田東組置割）近藤敏子（熱田紺屋町下屋敷）の兩女史です。

福山支部

幹事　阪口みつ

△前略此頃多少理解して來たのかちよいちよい知らぬ人に協會の主義や質問されます。又訪問も受けます。しかし仲々困難な點が多くてじれつたい位です。篠木さんが居れば……併し本部の方から大いにこちらの方を援けて下さるだらうと思つて篠木さんが協會に居る事を心強く思ひます。

△目下の狀態私はほんとに一々說明して歩きたい位まだまだ眠つて居ます。然し私にはそれほどの時間を許してくれません。まあまあ氣永くまつてゐて下さいませ。じくじくとやり、どうしてもやりとほす考へです。

出版部通信（四月末日迄）

雜誌維持費加入者芳名

名生ゆき氏　五口（一月より）
山田美都氏　一口（四月より）
廣月政氏　一口（四月より）
後藤力吉氏　五口（一月より）

訂正　七號記載土田氏は四圓寄附の間違ひ。

雜誌寄附者芳名

富田幸次郎氏　拾圓
兒玉眞子氏　（五圓切手）
上野山允氏　一圓七十錢
阪本眞琴氏　五圓五十錢
和田篤子氏　五圓

雜誌借入金及未拂金

金貳百五拾圓
借入金壹千圓（兵儥、保證金の爲め）
未拂金四百二十九圓六十三錢（印刷屋、製本屋）

出版部理事の變更

本年の一月から私が出版部の理事として、女性同盟の編輯並に經營の責任を負うて居りましたが、去る四月末日限りで編輯は矢部初子氏に、經營は平塚氏に御讓りして職を退く事になりました。

編輯者としては第八號の編輯限りで御わび致して置きましたが、經營者としても亦茲に御許しをいたゞかなければなりません。

素人で計算や外部の狀況に暗いところから又、多忙でその方を顧み、確實な基礎をつくる事を忘つて居りましたので、關係者の方々に少なからぬ御迷惑をかけ自分も苦しみました。

而しもう大體に於て收支は償ふ位になりました。尤も筆者への御禮や新聞廣告編輯者の手當等は無論まだ入れられません。

どうか此の雜誌の健全に發達して、婦人雜誌界のオーソリテイとなりますやう此上御力添を願上げます。

寄贈雜誌

文化、婦人と新社會、國際法外交雜誌、婦人の友、東方時論、無名、岩永通信、憲政公論、內觀、投地、文化運動、婦女新聞、女の世界、女學世界、婦人畫報、女性日本人、婦人俱樂部、婦人界、皇道勞働．

□編輯室より

▼「女性同盟」の編輯を市川さんから頼まれたのは四月頃でした。私はこの方面の仕事に興味のない事はありませんでしたが、も少し自分自身を育て上げたいと思ひまして、お受けしませんでしたところが市川さんが渡米なさるに就いて協會の手がなくて困るから是非にとの事でつひ引受けしてしまひました。それは五月も中頃過ぎでしたので、それから六月號の編輯にかゝりましたが、とても思ふ原稿が集まる見込が立ちませんでした。それで一時は會報だけにしてはとの說まで出た位でしたが、それではどうしても濟まない氣がして、どうにかかうにか作り上げる事になりました。そんな都合で內容も不滿足なものになりましたが、七月號からは表紙を初め、誌面全體に亘つて大刷新を圖りたいと期してゐるのですから今度だけはお許し下さい。發行もまた遲引いたしましたが、來月號からは是非發行日までに出したい積りです。この際皆樣からも本誌の內容形式に亘りお氣づきの點を忌憚なく御指摘下さいますやうくれぐれもお願ひいたします。

▼今度からは雜誌の附錄として會員版といふものを作り、會員名簿其他の事項を記して會員の方だけに配布する事に定めました。これによつて會員相互の連絡を一層鞏固にしたいと思ひます。

▼東京は五月から引續いて降りみ降らずみのいやな空模樣、夕方など綿入れでも重ねたいと思ふ事があります。このまゝで梅雨一杯しけこまれた上、眞夏に移らうものなら、晴れやかな初夏の氣持を今年は感ずる日もなくてしまふ事でせう。チブスが流行つて居るとかいふ事です。皆樣の御自愛を祈り上げます。(矢部)

定價表

一部	金三十錢(郵稅五厘)
半ヶ年	金一圓七十錢(郵稅共)
一ヶ年	金三圓三十錢(郵稅共)

廣告料

特等	一頁	五十圓
一等	一頁	四十圓
二等	一頁	三十圓
	半頁	二十圓

四回以上割引あり

注意

▼御注文は總て前金で願ひます。
▼御送金は振替に御拂込み下さい。
▼郵券代用の際は一割增の事。(五厘切手にて)
▼誌代の領收書は雜誌發送を以つてかへます。
御入用の方は端書封入下さい。

大正十年五月卅日納本
大正十年六月一日發行(第九號)

編輯兼發行印刷人　奥むめお

東京市麴町區內幸町一ノ六
發行所　新婦人協會
振替東京五〇九〇〇番

賣捌所　東京堂　東海堂　北隆館　上田屋　至誠堂　其他全國各書店にあり

新婦人協會 規約

第一條　本會は新婦人協會と稱し、事務所を當分の中東京市外田端四四五平塚方に置く。

第二條　本會はその綱領に從ひ、婦人相互間の團結を計り、婦人の擁護のため、其進步向上のため、或は利益の增進、權利の獲得のために努力せんことを期す。

第三條　本會は第二條の目的を達せんがために、左記各事項中最も緊要と認めたるものより着手し漸次其の全體に及ぶ。

一、女子高等敎育、小學大學の男女共學、婦人參政權、婦人に不利なる諸法制の改廢、母性保護等の要求をなすために實際運動を開始すること。

一、各地の有力なる婦人團體と連絡を計り、婦人共同の利益に對する日本婦人總同盟を組織すること。

一、婦人に關する諸種の特種問題の研究調査會を設くる事。

一、婦人問題、勞働問題、生活問題及其他諸種の社會問題に關する講演會を各地にて開くこと。

一、機關雜誌「女性同盟」の發刊。

一、婦人勞働者の教化機關として學校を設立し、婦人勞働新聞を發刊し、健全にして實力ある婦人勞働組合を組織する基礎を造る事。

一、婦人身上相談、職業紹介、結婚媒介。

一、女子大學講座の開設。

一、事務所、公會所、教室、婦人共同寄宿所、婦人簡易食堂娛樂所、運動場、圖書館等を含む婦人會館の建設。

第四條　本會に左の四部を置く

一、會務部——庶務、會計

一、出版部

一、研究部——政治法律部、社會部、教育部、衣食住部

一、事業部

第五條　本會々員は左の三種とす

一、正會員

一、贊助會員

第一種贊助會員　第二種贊助會員

一、維持會員

第六條　正會員は本會の事業に直接關與し、本會と終始責任を共にする婦人にして、會費月五十錢を醵出する者をいふ。

正會員は研究部員として、何れかの部に屬すべきものとす。

第七條　第一種贊助會員は本會の趣旨に贊成し、本會の事業を援助する男女にして、會費月一圓を醵出する者をいふ。

第八條　第二種贊助會員は本會の趣旨に贊成し、知識又は勞力を以て本會の事業を援助することを約せる男女、及婦人團體の代表者にして、會費を要せず。

第九條　維持會員は本會の趣旨に贊成し、本會の事業を援助する男女にして、會費月五圓以上又は一時に五百圓以上を醵出するものをいふ。

第十條　會員は全部機關雜誌の配布を受くるものとす。

第十一條　本會に入會せんとする者は住所、職業氏名を記し、第二種贊助會員以外の會員たらんとするものは會費三ケ月分を添へて申込むべし。但し正會員たらむとするものは外に會員の紹介を要す。

第十二條　本會に左の役員を置く。

一、理事　一、書記　一、評議員

第十三條　理事は若干名とし、評議員中より正會員を互選す。其任期は二ケ年とす、理事は第四條に掲げられたる各部を分擔するものとす。別に總務理事を置き全體を總ぶ。若し本會を代表する必要ある時は總務理事これにあたる。（但し最初は發起人を以てこれに充つ）

第十四條　書記は若干名とし理事これを委囑す。書記は庶務をとるものとす。

第十五條　評議員は若干名とし、總會に於て正會員中より半數を互選し、贊助會員維持會員の婦人中より半數を互選す。其任期は一ケ年とす。

第十六條　總會は每年一回春季に之を開會す。但し必要の場合は臨時總會を開く事を得。

第十七條　本會の經費は會員の會費及特志家の寄附金を以て之にあつ。

第十八條　會計報告は機關雜誌及總會に於て發表す。

第十九條　同一地方にて正會員五名以上を有する時は支部を設置する事を得。

第二十條　本會則は總會の決議によるにあらざれば變更する事を得ず。

第二十一條　細則は別にこれを定む。（以上）

大正十年六月一日發行
大正十年五月卅日印刷納本

女性同盟六月號

（大正九年十月一日第三種郵便物認可）



定價（一部）參拾錢（税五厘）

發行所
東京市麹町區内幸町一ノ六
振替東京五〇九〇〇
新婦人協會